

岐 阜 大 学 大 学 院
連 合 農 学 研 究 科 (博 士 課 程)
岐 阜 大 学 ・ イ ン ド 工 科 大 学 グ ワ ハ テ ィ 校
国 際 連 携 食 品 科 学 技 術 専 攻 の 概 要

平 成 3 0 年 3 月 3 0 日
岐 阜 大 学

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 設置の背景.....	1
(ア) 岐阜大学.....	1
(イ) インド工科大学グワハティ校.....	2
(ウ) 両大学間の交流と国際連携専攻設置への着想.....	2
(2) 設置の必要性.....	3
(3) 設置の趣旨.....	3
(4) 養成する人材像.....	4
(5) 3つの教育ポリシー.....	4
(ア) ディプロマポリシー.....	4
(イ) カリキュラムポリシー.....	4
(ウ) アドミッションポリシー.....	5
2 専攻の特色	5
(1) 対象学問領域の特色.....	6
(2) 二大学連携専攻としての特徴.....	6
(3) 国際連携専攻を設置及び実施することによる効果.....	6
(4) 修了後の進路.....	7
3 国際連携専攻等の名称及び学位の名称	8
(1) 専攻の名称.....	8
(2) 学位の名称.....	8
4 教育課程編成の考え方及び構成に関する事項	9
(1) 教育課程編成の考え方.....	9
(2) 教育課程の構成.....	10
(ア) カリキュラムの概要（履修科目）.....	10
(イ) カリキュラムの実施期間.....	11
(3) 共同開設科目及びその実施方法.....	12
(4) 博士論文研究及びその実施方法.....	13
(ア) 研究計画の立案.....	13
(イ) 博士論文研究の進捗報告.....	13
(ウ) 学位審査のスケジュール.....	13
(5) 既存の専攻のカリキュラムとの関係.....	14
5 教員組織編成の考え方及び特色	14
(1) 教員組織編成の考え方.....	14

(2) 教員組織の特色	14
(ア) 国際連携専攻教員	14
(イ) 専任教員及び専攻長	14
(ウ) 指導教員	14
(エ) 専任教員の役割	15
6 教育方法, 履修モデル, 研究指導の方法及び修了要件	15
(1) 教育方法	15
(2) 学修の評価及び報告・管理	15
(3) 履修モデル	15
(4) 研究指導方法	17
(5) 修了要件	17
(6) 学位審査	18
(ア) 学位授与方針	18
(イ) 学位審査体制	18
(ウ) 学位審査方法	19
(エ) 授与される学位	19
(7) 教育・研究にあたっての安全と倫理審査の体制	19
(ア) アイソトープ及びX線を使用する実験	19
(イ) 組換えDNA実験	19
(ウ) 動物実験	19
(エ) 病原体を扱う実験	20
(オ) 有害化学物質(劇毒物等)を扱う実験	20
(カ) 生物資源を扱う実験	20
(キ) 公正な研究活動の推進及び研究倫理の向上	20
7 施設・設備の整備計画	20
(1) 岐阜大学	20
(ア) 校地の整備計画	20
(イ) 校舎等施設の整備計画	21
(ウ) 図書館の整備事業及び資料	21
(エ) 自習室について	22
(2) IITG	22
(ア) 校地の整備計画	22
(イ) 校舎等施設の整備計画	22
(ウ) 図書館の整備事業及び資料	23
(エ) 自習室について	23
8 入学者の選抜の概要	23
(1) 出願資格	23
(ア) 岐阜大学の出願資格	23

(イ) IITG の出願資格	24
(2) 選抜方法及び選抜時期	24
(ア) 岐阜大学の試験方法及び基準	24
(イ) IITG の試験方法及び基準	25
(3) 入学定員	26
(4) 入学希望者への情報提供	26
9 管理運営	26
(1) 研究科長及び専攻長	26
(2) 合同運営委員会	26
(3) 合同学位審査委員会	27
(4) 合同入学審査委員会	27
(5) ディレクター・学長会議	27
(6) 事務体制	27
10 自己点検・評価	28
(1) 全学的実施体制	28
(2) 国際連携専攻に係る教育研究活動の状況に関する評価	28
11 連携海外大学について	28
12 協議及び協定について	29
(1) 合同運営委員会における協議	29
(2) 両大学の指導教員間における協議	29
(3) 協定について	30
(4) 不測の事態が生じた場合の連絡体制及び手続	30
13 情報の公表	30
(1) 岐阜大学	30
(2) IITG	32
14 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	35
15 学生への在籍管理及び安全に関する取組	35
(1) 在籍管理	35
(2) 休学，復学及び退学	35
(3) JDプログラムが終了する場合の手順	35
(4) 経費	36
16 学生への経済的支援及び福利厚生に関する取組	36

1 7	その他	37
(1)	協定書で使用する用語の定義	37
(2)	国際連携教育課程の実施に係る責任の所在	37
(3)	知的財産権の扱い	37
(4)	セーフティーネット	37
(5)	単位を取得できなかった際の対応	37
(6)	連携外国大学への渡航前の準備について	38

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の背景

(ア) 岐阜大学

岐阜大学は、高度理工系人材育成により、日本のものづくりの中心である東海地域に多くの人材を送り出している。岐阜大学の第3期将来ビジョンでは、「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野において全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」を目指すことを掲げている。岐阜大学大学院連合農学研究科は、岐阜大学及び静岡大学の農学研究科が有機的に連合することによって、特徴のある教育・研究組織を編成し、生物生産、生物環境及び生物資源に関する諸科学について高度の専門的能力と豊かな学識、広い視野をもった研究者及び専門技術者の養成、さらには次世代の大学教員の養成を行ってきた。平成3年（1991年）の設置以来、本研究科は、農学の進歩と生物資源関連産業の発展に寄与し、さらに、農林畜水産分野の人材養成を切望する海外からの要請にも応えて、高度の学術・技術の修得を希望する外国人留学生を積極的に受入れ、諸外国における農学及び関連産業の発展にも寄与してきている。本研究科では、平成24年（2012年）7月、本研究科の卒業生が教員として活躍する大学あるいは本研究科と教育研究連携を行ってきた大学など、6か国9大学を招き「南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム」の締結に向けた議論を行い、平成25年（2013年）にコンソーシアムを締結した。現在では日本を含め8か国18大学が同コンソーシアムに加盟し、その活動を通して、「農学系博士教育の質の保証と社会貢献の向上を目指す国際連携活動」の一環として「デュアル/ダブル PhD ディグリープログラム」と「サンドイッチプログラム」による国際的な教育連携を実施している。

本学の母体の一つである大正12年（1923年）に設立された岐阜高等農林学校（現在の応用生物科学部の起源）では食品産業界に多くの人材を輩出する農芸化学科が設置され、その後設置された農業別科では食品加工分野が設置されている。このことからわかるように、本学は農業生産を基盤とする食品関連産業に関わる技術者の養成に古くから強みを持つ。現在本学は、食品加工に加えて、食品の機能性に関する領域などの健康科学・生命科学と関連する教育・研究に取り組んでいる。加えて本学は、植物バイオテクノロジーを基盤とする農業生産分野及び、農業の6次産業化に対応する農業経営分野などの教育・研究にも取り組んでいる。本学で進展するこれら二つの教育・研究を連携させることにより、食品産業を中軸とする生物産業の発展に貢献する人材を育成する枠組みを構築してきた。平成31年（2019年）には、岐阜県と共同で、食品科学分野に関する研究開発及び地域の企業支援等の促進・強化を目指す「岐阜県食品科学研究所（仮称）」を本学キャンパス内に設置予定である。

(イ) インド工科大学グワハティ校

インド工科大学グワハティ校は、インド北東地域にあるアッサム州の中心都市であるグワハティ (Guwahati) にある、インド最高研究機関・インド工科大学の一つである。IITG は 1994 年に IIT としては 6 番目に設立された大学で、これまでに設立された 16 校の IIT のなかでは「old IIT」の一つと位置づけられている。IITG は、2014 年、機関誌「Times Higher Education」が格付けする「創立 50 年未満の世界トップ 100 大学 (世界の新興大学 100)」に選出され、さらに 2016 年には世界小規模大学ランキングにおいて 14 位となり、その教育・研究水準が世界的に高く評価されている。

IITG は、インド主要部と地理的に離れたインド北東地域に設置された唯一の IIT で、同地域の発展に資する人材の育成を牽引する教育・研究機関である。インド北東地域は、西はインド主要部を、東は東南アジアを陸路で結ぶ入り口に位置しており、近い将来、東南アジアとインド周辺諸国を結ぶ物流の重要拠点となることが見込まれ、同地域の経済発展が大いに期待できる。同地域にある IITG に対し、我が国を含む東部アジア地域との連携を担う役割が大いに期待されている。

「アッサム」の名で知られるインド北東地域は、生物生産に適し生物資源の宝庫であり、生物資源の生産と利用を基軸とする食品関連産業の振興が望まれている。しかし、工学を中心とする現在の IITG における教育・研究体系では、食品関連産業を担う人材の育成が不十分な現状にある。そこで、食品関連産業を担う人材の育成に向けて、IITG において「食品科学技術研究センター (仮称)」を設置申請中である。

(ウ) 両大学間の交流と国際連携専攻設置への着想

平成 22 年 (2010 年)、日本学術振興会の二国間交流事業を通して、本学応用生物科学部教員と IITG 生物科学・生物工学科及び化学工学科の教員は共同研究ならびに学生・若手教員の相互交流を行った。この交流が起点となり、IITG は、本学が主宰する南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム [平成 25 年 (2013 年) 締結] の主要メンバーになった。それ以降、日本学術振興会の二国間交流事業 2 件及び同振興会二国間共同セミナー 1 件を実施するとともに、本学と IITG との間において教員による講義提供、学生の長期・短期留学、合同シンポジウムを双方向かつ緊密に行ってきた。この間、東海地域の食品・生物工学関連企業を IITG 教員が視察する機会ならびに、インド北東地域の同関連産業を岐阜大学教員が視察する機会を設け、本学教員ならびに IITG 教員が日印両地域の食品・生物工学関連企業の実情を知るとともに、企業関係者との交流を深めてきた。このような交流を行う過程で、日印双方の食品関連産業を活性化する人材及び係る人

材を指導・育成できる研究開発人材及び大学教員が必要であり、かつ本学とIITGの教育研究資源を有効に活用する国際連携専攻（修士課程）と国際連携専攻（博士課程）をそれぞれ設置することによって、求められている人材を養成できるとの結論を得た。

（２）設置の必要性

インドは、世界第二位の人口を有し、国内総生産の成長率が高く、若年層の割合が高く労働力確保が比較的容易であることから、今後、巨大市場としての成長が期待できる。さらに、高い経済成長率、識字率の向上を背景に、高等教育を望む中流階級が今後10年で500万人を超えると推計されている。インドは、次世代を担う優秀な人材の獲得ターゲットとしても非常に魅力的な国である。

インド国内の食品関連産業に着目すると、同産業は未成熟で、例えば果実類及び野菜類ではわずか数%しか加工されず、消費者の口に入ることなく無駄に廃棄されている。インドの食品産業を食品科学と関連技術に裏打ちされた、より高度で先進的な食品関連産業へとアップグレードすることがいま現在求められている。一方、日本の食品関連産業においては、新しい生物資源（果物や野菜）を積極的に活用した新しい食品の開発、さらには、人口減少と高齢化による産業衰退化を見据えた海外新市場の開拓などを戦略的に進めて行く必要がある。

本学が位置している東海地域（岐阜県、愛知県、三重県、静岡県）には、質の高い食品加工製品を生産できる多くの中小企業がある。なかには、国際展開を指向しつつも、国外事情の複雑さからその好機を捉えられない企業もある。そこで、東海地域及びインド北東地域の食品関連産業を橋渡しすることができれば、両地域におけるイノベーション創出については両地域の活性化につなげることができる。これらの実現に向け、食品に関する日印両地域の実情に詳しく両地域の具体的課題を発見・解決できる技術者人材が社会的に求められている。そのためには、国際的視野に立ち地域的課題を解決する「グローバルな視点」を持つ高度専門職業人（修士号を有す技術者）及びその人材を育成する研究開発人材及び大学教員（博士号取得者）に対する人材養成プログラムが必要である。

（３）設置の趣旨

これまでに述べてきた背景及び社会的必要性を踏まえ、本学とIITG両大学の意向が一致し、食品科学と関連技術（以下、「食品科学技術」）に関する国際連携プログラム（修士課程）及び国際連携プログラム（博士課程）を開設することに合意した。

今回設置を申請する国際連携プログラム（博士課程）は、連合農学研究科が目指す学識・技術に裏打ちされた高度な専門性に加えて、デザイン思考力に基づく

高い研究能力、日・印関係を中軸とする協働教育による国際的な視野と国際性を備え、高度専門職業人を指導できる研究開発人材及び大学教員を養成することをめざす。

(4) 養成する人材像

本国際連携専攻（博士課程）設置の目的は、東海地域とインド北東地域を中心とする日印両国の食品関連産業を牽引する高度専門職業人を指導できる研究開発人材及び大学教員を養成することである（資料1）。そのため、食品科学技術に関する高度な専門性とデザイン思考を活用した研究能力を基盤として、食品に関連する日印両地域の課題を解決できる「グローバルな視点」を持つ人材を養成する。さらに、国際連携プログラムの特長を活かし、英語を共通言語としてコミュニケーションする力、国際性（異文化適応力と国際的協働力）及び産業を牽引する研究開発リーダーならびに教育リーダーとしての資質を育てる。

(5) 3つの教育ポリシー

上記の人材像を実現するための3つの教育ポリシーを以下に示す。

(ア) ディプロマポリシー（学位授与の方針・人材育成像）

本専攻では以下のような能力を備えた人に博士の学位を授与する。

- ①各自の専門領域における学識と高度な技術活用能力や分析能力。
- ②専門領域に関連した分野における種々の諸問題について、幅広い知識をもって科学的に解説する能力。
- ③独創的な研究課題を設定し、解決して内容を学術論文として出版化できる能力。
- ④国内外の研究者・技術者と共同でプロジェクトを実施・推進できる能力。
- ⑤研究者や高度専門技術者としての倫理性を理解し、規範として行動する能力。

本専攻は、修了者の上記能力の修得度・達成度を適切に評価し、厳格な学位認定を行う。

(イ) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

本専攻は、連合農学研究科におけるカリキュラムポリシーに加え、デザイン思考の要素を取り入れた研究リテラシーに基づく博士論文研究を中心とする教育課程を提供し、食品科学技術に関する学識と高度な技術を備えた人材を養成するカリキュラムを編成する。編成したカリキュラムによって学生が修得する能力を以下に列記する。

- ①同学年に入学した様々な分野で学ぶ博士課程学生が各自の研究課題を発表・討論する総合農学ゼミナール（必修科目）を履修することによって、学生は各自の専門性を高めるとともに、広範囲の高度な専門知識を修得する。さらに、国

際コミュニケーション及びプレゼンテーション能力と情報分析・評価能力を修得する。

- ②本専攻ではデザイン思考を取り入れた研究リテラシーに基づく博士論文研究を実施するが、1年次から3年次にわたり研究計画と進捗を随時報告する共同開設科目（必修科目）を履修することによって、学生はデザイン思考のプロセスに沿って各自の研究課題を設定する能力及び解決する能力を修得する。
- ③研究計画と進捗を随時報告する共同開設科目（必修科目）はセミナー形式で行う。このセミナーでは、入学大学の指導教員に加えて連携外国大学の指導教員も参加し、多角的視点から研究討論を行う。この過程を通して、国際言語である英語を駆使して研究成果を発表し、論文にまとめる能力を修得する。
- ④本専攻では日本とインド双方での留学と国際協働による研究活動を行う。これによって、それぞれの地域における異なる文化・産業への理解を深め、グローバルに活躍するために必要となると想定される豊かな国際性、すなわち異なる文化的環境に適応する力（異文化適応力）と文化的違いを超えて協同して物事を進める力（国際的協働力）を身につける。
- ⑤研究者倫理・職業倫理（必修科目）及びメンタルヘルス・フィジカルヘルス（必修科目）を履修することによって、研究者・専門職業人にとっての倫理及び自己管理能力を育む。

（ウ）アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

本専攻は、留学を伴う国際的な教育環境の中で食品科学技術に関する学識と高度な技術を修得し、食品に関連する日印両地域の課題解決に貢献しようとする意欲的な学生を求める。このためには、以下のような資質が必要となる。

- ①人類の生存を基本に農学の総合性を理解し地域及び社会貢献に意欲を持つ人
- ②研究課題を自ら設定し、その課題にチャレンジする意欲を持つ人
- ③専門の知識だけでなく、幅広い知識の吸収に意欲を持つ人
- ④倫理観を持ち、農学及び関連分野でリーダーシップを発揮できる人
- ⑤留学を伴う教育環境で学ぶ意欲と国際的に活躍する意欲があり、そのための基礎力を持つ人

2. 専攻の特色

本専攻は、岐阜大学及びIITGの博士教育が連携することで、食品関連産業の要請である、国際的なビジネス環境でイノベーション創出に貢献できる国際通用性の高い高度専門職業人材を指導できる研究開発人材及び大学教員を輩出する。本専攻の特色は、以下にまとめられる。

(1) 対象学問領域の特色

本専攻は、農学系の食品科学分野の本学と工学分野のIITGとの間の関連領域から構成するため、広い学問領域から構成される特色を持つ。

・研究対象とする中心的な学問分野

本設置計画における国際連携専攻が主として対象とする学問分野は以下である。食品科学の関連分野としては、食品生化学、食品栄養学、食品微生物学、食品工学、食品加工学、食品保蔵学、天然物化学、植物バイオテクノロジー、有機化学、生化学、ゲノム科学などが挙げられる。一方、食品技術の関連分野としては、化学、化学工学、物質化学、生物工学、計算科学、電子工学、数理的手法、最適化学などが挙げられる。本専攻では、農学分野と工学分野の連携によって相乗効果が生まれ、研究が活性化され新しい学問領域が生まれる可能性が期待できる。

(2) 二大学連携専攻としての特徴

「主大学」とは、学生が学位取得を目指して博士課程に入学した大学で、当該学生を課程在籍期間の少なくとも半分の間受け入れて研究指導を行う大学とする。

「副大学」とは、連携を組むもう一方の大学とする。主大学単独では困難な研究の遂行や、国外での研究経験を積むため、修業年限内の一定期間、副大学へ留学する。

本学とIITGの連携による双方への留学は、食品製造における異なった文化的背景の理解につながる。すなわち、日本特有の品質にこだわった食品製造の考え方（匠の精神）とインド特有の創意工夫により新しいものを作る考え方（ジュガードの思想）の理解である。異なる文化的背景のもとでの研究教育は柔軟な発想と広い学識を有する人材の養成に役立つ。このように、互いに異なる特徴を有する教育研究機関の連携により、相乗効果を生み出そうとするのが本連携専攻の特徴である。

(3) 国際連携専攻を設置及び実施することによる効果

本専攻では、留学を伴う国際的な教育環境の中で学ぶことを標準とするため、学生にとって通常専攻にはない特色がある。一方、連携外国大学との教育プログラムは双方の大学にも良い効果が期待できる。それらを以下に示す。

・国際連携プログラムを修了することで期待できる学生における効果

- ①学生はおおむね1年間、副大学での学修と研究活動に参加する。これは、国際性（異文化適応力及び国際的協働力）、さらには将来に渡って有用な国際的な人脈を身につける好機である。
- ②学生は、入学した大学の指導教員と連携外国大学の共同指導教員の両教員から研究指導を受ける。これによって研究活動の幅が広がり、問題解決のため

の多角的な視点が養成される。

- ③本国際連携プログラムでは在学期間を延長することなく日本と海外における2大学の連名で単一の学位を授与し学生の能力を保証する。これによって、両大学から質保証された国際通用性のある学位取得者という社会的地位を得ることができる。
- ④本国際連携プログラムによって修得した専門性とデザイン思考を取り入れた研究リテラシーを強みとして、アカデミア及び産業界における将来のキャリアパス形成が容易になる。

両大学へもたらされる効果を以下に挙げる。

- ・国際連携専攻を設置し教育・研究を行うことによって大学にもたらされる効果
 - ①社会から求められている食品関連産業界の高度専門職業人の養成にいち早く対応するために、同人材を指導できる研究開発人材及び大学教員を養成できる。
 - ②国際連携専攻を基に、異なる分野に強みを持つ研究室が共同研究を実施することによって、イノベーションにつながる研究成果をもたらす。
 - ③博士学生を共同で指導することによって、両大学間の共同研究の機会が増える。さらに、研究機器や研究施設の共同利用を通して大学全体の研究が活性化される。その結果、両大学の教育・研究水準が向上する。
 - ④両大学において、教員、学生、大学キャンパスの国際化がさらに進む。
 - ⑤両大学間の連携が日印の産業界を結びつける架け橋として機能することによって、次世代の大学が果たしうる役割を提案できる。
 - ⑥日印共同学位の授与を通して、両大学は両国間の親交を推進する人材を輩出する高等教育機関として国際的な評価を将来得ることができる。

(4) 修了後の進路

本国際連携専攻(博士課程)の修了生は、食品科学技術に関する専門性を高め、デザイン思考教育を取り入れた博士論文研究を実践する過程で、食品関連産業が求める高度専門職業人を指導できる研究開発人材及び大学教員としての資質を身につけることができる。さらに、日印の教育研究機関での教育を受けることにより、英語を使ったコミュニケーション力と国際的な対応力(異文化適応力と国際的協働力)を修得し、イノベーション創出に至る異なる二つの発想法(「匠の精神」と「ジュガード思想」)を体験的に学ぶことができる。その結果、日印を含む世界各国を活躍の場とする食品関連産業界の教育ならびに研究開発リーダーとしての資質を養うことができる。修了後の進路として、以下が想定される(資料1)。

- ①インドを含む世界各国に展開する食品産業に関連する企業（食品製造業，食品流通業，食品・医薬関連企業，バイオテクノロジー企業）における研究者
- ②インドを含む世界各国への事業展開を目指す食品関連企業における研究者
- ③国際的な公的研究機関や公的試験機関における教育者や研究者
- ④国際展開を視野に入れた公的機関の公務員
- ⑤大学や高等教育機関における教員

3. 国際連携専攻等の名称及び学位の名称

(1) 専攻の名称

研究科及び専攻の名称は以下のとおりとする

研究科：連合農学研究科 (The United Graduate School of Agricultural Science)

専攻：岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻

(International Joint Department of Food Science and Technology
between Indian Institute of Technology Guwahati and Gifu University)

本国際連携専攻は，本学連合農学研究科の下に独立専攻として設置される予定である。本学は農学系の食品科学に強みを有し，IITG は工学に強みを有する。IITG と協議を行った結果，二つの異なる強みを有する大学が国際連携して新しい学際専攻を作ることと明示する名称を設定するのがよいと合意した。したがって専攻名は，食品科学技術を基盤とし連携外国大学との教育プログラムであることを明示するため，本専攻の和文による名称を「岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻」，英文による名称を International Joint Department of Food Science and Technology between Indian Institute of Technology Guwahati and Gifu University とした。そして，本専攻及び IITG の関連専攻において，同一名称の教育プログラムすなわち International Joint PhD program in Food Science and Technology を運用する。IITG との協議の結果，本プログラム名を共同プログラム名称とする旨の合意を得ている。以降では同プログラムを「JD プログラム」と称する。

なお，食品科学技術 (Food Science and Technology) に関する大学院博士課程専攻を擁する大学には，米国ではアイオワ州立大学とオレゴン州立大学，カルフォルニア大学デービス校，タイではチュラロンコン大学，カセサート大学などがある。本専攻の名称は，認知されている専攻分野における博士課程の名称であることを示していることから，国際通用性のある名称と言える。

(2) 学位の名称

学位の名称は以下のとおりとする。

学位： 博士（学術）

Doctor of Philosophy

本専攻の母体組織である連合農学研究科では、生物生産、生物環境及び生物資源に関する諸科学について高度の専門的能力と豊かな学識、広い視野をもった研究者及び専門技術者の育成、さらには次世代の大学教員の養成を目指している。その研究科の下に設置する本国際連携専攻は、本学は食品科学、IITGは食品技術という異なる専門的強みを活かして共通のプログラムを構築し、食品関連産業におけるイノベーション創出に貢献する人材を教育できる教員の養成を目指している。この人材には、食品加工の状況を学術的な立場から俯瞰でき、多角的視野・視点から研究を推進するための深い知識と技術の修得が要求される。そのような人材に学位を与える場合、「博士（学術）」が適している。

国際連携専攻の学位取得者は、日本、インドをはじめ世界各国に活躍の場があると考えられる。そのため、学位の英語名称には国際的に通用する名称が望ましい。「博士（学術）」をそのまま英語名称に変換すると、**Doctor of Philosophy**となる。なお、食品科学技術を専攻分野とした「博士（学術）」の学位を授与している大学には、米国ではアイオワ州立大学とオレゴン州立大学、カルフォルニア大学デービス校、ドイツでは、カールスルーエー工科大学、オランダではワーゲニンゲン大学、スウェーデンでは、ルンド大学、タイではチュラロンコン大学、カセサート大学などがある。本専攻の英文による学位名称は、国際連携専攻であること、認知されている専攻分野における博士課程の学位であることを示していることから、国際通用性のある名称と言える。

本学位名称は、IITGに照会し、共同学位名称とする旨の合意を得ている。

学位記には、両大学の大学印または学長の署名と共に、学位取得を行った主大学及び副大学の名称が明記される。

4. 教育課程編成の考え方及び構成に関する事項

（1）教育課程編成の考え方

博士課程である本専攻では、研究指導を中心に教育課程を編成する（資料1）。研究指導は、両大学の教員が共同して行う（共同指導教員制）。研究指導には、デザイン思考のプロセスに基づいた研究リテラシーを導入し、学生が研究能力、すなわち研究課題を設定する能力及び解決する能力、さらに学術論文として出版化できる能力を向上できるよう教育課程を設計した。

デザイン思考に基づいた研究リテラシーとは、研究遂行に必要な活動「①研究背景の理解」、「②研究目的の設定」、「③研究計画の立案」、「④研究計画の遂行」、「⑤研究成果の公表」、「⑥研究成果の社会還元」を明確化し、これら

をデザイン思考のプロセスである「共感（観察）」、「問題定義」、「アイデア創出」、「プロトタイプ」、「検証」、「改良」に当てはめることであり、効率的で効果的な研究を可能にする。具体的には、以下に示すセミナー形式の必修科目を導入する（資料1）。

1. ディサテーション プロジェクト プロポーザル（①②③に対応）

研究計画に対する指導と評価を行う。

2. バイマンスリー プロGRESS レビュー（③④の反復に対応）

研究進捗に対する随時指導と評価を行う。

3. アニュアル プロGRESS レビュー（⑤⑥に対応）

1年間の研究進捗に対する随時指導と評価を行う。

4. ディサテーション シノプシス レビュー（⑤⑥に対応）

博士課程における研究内容に対する評価及び博士論文作成に向けての指導と助言を行う。

これらの必修科目で指定される各セミナーには、学生が入学した大学の指導教員に加えて、連携外国大学の指導教員も参加し、多角的視点から研究討論を行う。

本専攻では、同学年に入学した海外からの留学生を含む、様々な分野で学ぶ博士課程学生が一同に会し各自の研究課題を英語で発表・討論する総合農学ゼミナールを必修科目とする。この科目の履修によって、各自の専門性の向上、広範囲の高度な専門知識の修得、国際コミュニケーション及びプレゼンテーション能力と情報分析・評価能力を修得することができ、さらには博士課程学生間の人脈形成を促進する。加えて、研究者倫理・職業倫理及びメンタルヘルス・フィジカルヘルスを必修科目とし、研究者・専門職業人にとっての倫理及び自己管理能力を育む（資料1）。

本専攻の大きな特徴として、日本とインド双方で研究活動を行う。研究活動における国際協働を通して、それぞれの地域における異なる文化・産業への理解を深めることができ、豊かな国際性を身につける。

（2）教育課程の構成

学生は日本及びインド両国でそれぞれ一定期間履修することを原則とする。

日本及びインド両国の教員による講義、演習、研究指導は英語を共通言語として用いて実施する。インドと日本の公用語は、それぞれヒンディー語と日本語であるが、両国の学生及び教員が言語翻訳を介することなく互いの意思疎通に使用できる言語は英語である。したがって、英語を共通言語として用いることが円滑な学習指導の為に最適であると双方合意した。

（ア）カリキュラムの概要（履修科目）

前項（1）「教育課程編成の考え方」に従い、以下の科目を設定した（資料2）。

・必修科目

1. 総合農学ゼミナール
2. 研究者倫理・職業倫理
3. メンタルヘルス・フィジカルヘルス
4. 特別研究科目「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」(研究提案)
5. 特別研究科目「ディサテーション シノプシス レビュー」(学位論文執筆提案)
6. 演習科目「バイマンズリー プログレス レビュー」(進捗報告)
7. 演習科目「アニュアル プログレス レビュー」(1年間研究総括)

なお、1～3は本学開講科目、4～7は共同開設科目である。

・選択科目

1. 食品科学技術特別講義

食品科学技術に関する最先端の技術について紹介し、食品科学技術研究に応用するための高度な知識と理論を習得する。

2. 食品科学技術特別ゼミナール

食品科学技術分野に関する最新の研究に関して紹介するとともに、それに基づく議論を行う。研究者や教育者に求められる幅広い視点と素養を習得する。

3. 食品科学技術特別演習

食品科学技術に関する最新の研究成果について取り上げ、研究の背景、最近の動向及び将来展望について討論する。研究者に求められる課題発見能力や問題解決能力を習得する。

4. 連合農学研究科開講の研究科共通の6科目

(イ) カリキュラムの実施期間

本専攻の教育課程期間は3年間を標準とする(資料3)。在籍期間のうちの約1年を副大学に滞在する。本学入学学生並びに IITG 入学学生は共に4月から本 JD プログラムでの修学を始めるものとする。学生はそれぞれの大学が開講する必修科目、選択科目、及び共同開設科目を受講する。

<本学入学学生>

各年次において以下の科目を履修する(資料3)。

○1年目(主大学に滞在)

学生は本学にて博士論文研究をスタートし、特別研究科目「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」、演習科目「バイマンズリー プログレス レビュー」及び演習科目「アニュアル プログレス レビュー」を履修する。加えて、必修科目である総合農学ゼミナール、研究者倫理・職業倫理及びメンタルヘルス・フィジカルヘルスの講義を履修する。

○2年目（副大学に滞在）

学生は副大学である IITG にて博士論文研究を実施する。2年目は、演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」、演習科目「アニュアル プロGRESS レビュー」を履修する。

○3年目（主大学に滞在）

学生は本学にて博士論文研究を進め、演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」を履修したのち、特別研究科目「ディサテーション シノプシス レビュー」を履修する。

<IITG 入学学生>

各年次において以下の科目を履修する（資料3）。

○1年目（主大学に滞在）

学生は IITG にて博士論文研究をスタートし、特別研究科目「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」、演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」及び演習科目「アニュアル プロGRESS レビュー」を履修する。

○2年目（副大学に滞在）

学生は副大学である本学にて博士論文研究を実施する。2年目は、演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」、演習科目「アニュアル プロGRESS レビュー」を履修する。加えて、必修科目である総合農学ゼミナール、研究者倫理・職業倫理及びメンタルヘルス・フィジカルヘルスの講義を履修する。

○3年目（主大学に滞在）

学生は IITG にて博士論文研究を進め、演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」を履修したのち、特別研究科目「ディサテーション シノプシス レビュー」を履修する。

使用教材及び科目実施に要する経費は、それぞれ実施大学の負担とする。成績評価・単位認定は各大学の講義担当教員が行い、両大学間で換算してそれぞれの大学にて記録する。

（3）共同開設科目及びその実施方法

博士論文研究を遂行するために設定された、特別研究科目「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」、「ディサテーション シノプシス レビュー」及び演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」「アニュアル プロGRESS レビュー」を共同開設科目とする。これらの科目は、セミナー形式で当該学生が滞在する大学にて行われ、ビデオ会議システムを用いて遠隔地からの参加を可能にする。学生の研究指導を目的として両大学の教員で構成される「学生指導委員会」

（資料3、詳細は項目6の（4）研究指導方法に記載）を学生毎に設置する。以下にそれぞれの科目の内容を説明する。

<特別研究科目>

「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」

1年目、研究を始めるにあたり、学生は何が解決すべき問題で、何を解明すべきなのか等、研究の背景について体系的に理解する。それに基づき研究の目的を設定し、研究計画を策定する。ビデオ会議システムの利用などにより学生指導委員会を構成する両大学の教員が出席の下、学生は研究計画について発表、質疑応答を行う。

「ディサテーション シノプシス レビュー」

博士入学以降に得られた研究成果、国際論文の公表状況、どのように博士論文を取りまとめるのかについて、学生は学生指導委員会で発表、質疑応答を行う。主・副両大学の教員による学生指導委員会での審査を経て、博士論文提出の可否が決定される。

<演習科目>

「バイマンズリー プロGRESS レビュー」

学生は研究の進捗を共同指導教員に報告し、問題点や今後の計画などを話し合う。4学期制の各学期に1回行うこととする。

「アニュアル プロGRESS レビュー」

学生は1年に1度、学生指導委員会において研究の進捗を報告、質疑応答を行う。

実施にあたっては、両大学の教員が共同で課題プログラムの決定や準備等から学生の指導及び成績評価まで行う。使用材料、経費等は開設される国の大学の負担とする。

(4) 博士論文研究及びその実施方法

(ア) 研究計画の立案

博士論文研究を始めるにあたり、学生は特別研究科目「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」に基づくセミナーを開催し、研究計画を提案する（資料3）。

(イ) 博士論文研究の進捗報告

演習科目「バイマンズリー プロGRESS レビュー」と「アニュアル プロGRESS レビュー」により、学生は博士論文研究の進捗を報告する（資料3）。その内容を主大学及び副大学の指導教員が評価する。

(ウ) 学位審査のスケジュール

博士論文を提出する学生は、研究内容をまとめ、特別研究科目「ディサテーション シノプシス レビュー」において学生指導委員会による審査を受ける（資料3および4）。博士論文の提出が許可された後、学生は博士論文を作成し主大学

に提出する。提出された博士論文は、主・副両大学の教員で構成される学位論文審査委員により査読が行われる。査読後、合同学位審査委員会により、公聴会、口頭試問が行われる（資料4）。合同学位審査委員会のメンバーは、査読、口頭試問の審査結果を両大学の審査機関で報告し、学位授与の可否が決定される。

（5）既存の専攻のカリキュラムとの関係

連合農学研究科（博士課程）の下に設置される本専攻のカリキュラムは、同研究科に設置された講義を共用する。

5. 教員組織編成の考え方及び特色

（1）教員組織編成の考え方

教員組織編成は、①国際連携専攻のカリキュラム実施と学生指導に十分に対応できる教員集団であること、②JD ガイドラインに示されている専任教員及び③専攻長からなる。また、国際連携専攻では双方向留学及び共同研究指導を実施することから、両大学による円滑な指導及び管理運営ができる組織を編成する必要がある。

（2）教員組織の特色

（ア）国際連携専攻教員

本学においては、学生定員に応じた指導教員（博士論文研究の主旨導及び副指導）及び JD プログラムに対する講義数に依拠して、27名（連合農学研究科担当教員）を予定している。IITGにおいても、同様の考え方から38名（IITG 化学工学科、生物科学・生物工学科及び農村開発センター）の教員が担当する。

（イ）専任教員及び専攻長

本学においては、本専攻に関わる本学の教員から専任教員1名及び専攻長をそれぞれ決定する。IITGにおいては、JD プログラムに関わる教員から専任教員が決定され、IITG 学術担当理事（相当）あるいは同理事（相当）の推薦者が専攻長となる。

（ウ）指導教員

研究指導は主大学及び副大学で行われる。各学生に対し下記の通り「共同指導教員」を置く（資料3）。

共同指導教員：

1. 共同指導教員1（主大学）

2. 共同指導教員2（副大学）
3. 共同指導教員3（主大学）（必要に応じて設定）

共同指導教員は密に連絡を取り合い、共同して学生を指導する。

（エ）専任教員の役割

本専攻の編成・実施のために、大学間の調整等を専門に行う教員として、専攻長を補佐する専任教員（英語名称ではコーディネーター）を双方に置く。両大学の専任教員の役割を以下に挙げる。

- ①両大学で行われている教育・研究を精査・熟知することにより、本専攻への入学を希望する学生とのキャリア相談や、入学後の教育・研究のサポートを行う。
- ②研究上の問題や、習慣や文化的な違いから起こる生活面の問題を解決し、学生が2国間を行き来しても無理のない教育・研究計画が立案できるよう支援する。
- ③両大学の学生の交流を通して、両大学間の共同研究活動を推進し、JDプログラムによる学生育成のための基盤を強化する。
- ④両大学の専任教員は共に協力して、JDプログラムを円滑に運営する。

6. 教育方法、履修モデル、研究指導の方法及び修了要件

（1）教育方法

学生は、両大学が提供する科目並びに両大学が共同設計した科目を履修するものとする。IITG はインドで実施される教育について責任を負い、本学は日本で実施される教育について責任を負うものとする。両大学は、学生に提供する指導内容、学生が取得した履修単位の状況及び JD プログラムに関する他の関連情報を共有する。

（2）学修の評価及び報告・管理

各科目の成績及び単位認定は、科目が実施された大学の担当教員が行う。セミナー形式で実施される共同開設科目の成績及び単位認定は、以下のとおりである。「バイマンスリー プロGRESS レビュー」は、実施したセメスターごとに共同指導教員が協議して評価する。学生指導委員会を構成する両大学の教員が出席の下で実施される研究進捗に関する科目（「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」, 「アニュアル プロGRESS レビュー」及び「ディサテーション シノプシス レビュー」）での発表・質疑応答についての評価は学生指導委員会が行う。

（3）履修モデル

本学入学学生を例に、博士論文研究の履修モデルを説明する（資料3）。

○1年目

主大学において学生は、主大学の指導教員と協議の上、副大学の共同指導教員を決定する。博士論文研究を進めるため、学生は主大学及び副大学の共同指導教員と協議を行なった上で、背景、目的、手法についてまとめ、「ディサテーション プロジェクト プロポーザル」にて発表を行い、学生指導委員会からの助言を受ける。さらに、「バイマンズリー プロGRESS レビュー」を定期的に行い、共同指導教員より研究を進める上での助言を受ける。入学1年以内に、「アニュアル プロGRESS レビュー」を行い、学生指導委員会による助言を受ける。加えて、必修科目である総合農学ゼミナール、研究者倫理・職業倫理及びメンタルヘルス・フィジカルヘルスの講義を履修する。

○2年目

副大学に滞在し、副大学の共同指導教員の下で研究を行う。その進捗を「バイマンズリー プロGRESS レビュー」にて報告し、共同指導教員より研究に関する助言を受ける。2年目終了時には、「アニュアル プロGRESS レビュー」において研究進捗に関する発表と質疑を行い、学生指導委員会からの助言を受ける。

○3年目

主大学に戻り、「バイマンズリー プロGRESS レビュー」を行い、研究をとりまとめた後、学生指導委員会の下で「ディサテーション シノプシス レビュー」の発表を行う。このレビューセミナーで博士論文執筆を許された学生は、博士論文執筆・提出し、博士審査（論文審査・口頭試問）を受ける。

実際に、両大学の学生が主として履修することになる科目は以下の通りである。これ以外の科目については各自の興味や研究テーマなどに応じて JD プログラム学生が受講可能な科目の中から選択して履修する（資料5）。

①必修科目・・・共同開設科目

1. ディサテーション プロジェクト プロポーザル (1単位)
2. バイマンズリー プロGRESS レビュー (3単位)
3. アニュアル プロGRESS レビュー (2単位)
4. ディサテーション シノプシス レビュー (1単位)

これらの科目は、学生が発表を行うセミナー形式で行うが、発表を行うためのプレゼン準備、調査、指導教員や他研究者との議論などに費やす時間を学習時間と認める。それぞれの科目において、学習時間が45時間から135時間程度になると想定されるため、上記の単位に相当するとみなしている。

②必修科目・・・岐阜大学開講科目

1. 総合農学ゼミナール (1単位)
2. 研究者倫理・職業倫理 (0.5単位)

3. メンタルヘルス・フィジカルヘルス (0.5 単位)

③選択科目

1. 食品科学技術特別講義 (1 単位)
2. 食品科学技術特別ゼミナール (1 単位)
3. 食品科学技術特別演習 (1 単位)
4. その他の選択科目 6 科目

IITG 入学学生については、JD プログラム開始以前にコースワークを履修している。それらの内容を精査して上記 1~3 を既修得単位として認めることができる。3 単位を与える理由は、学生は標準的には 4 科目のコースワークを履修する。それらのコースワークに基づく内容に関する試験を合格するには学修時間が少なくとも 135 時間が必要だからである。

(4) 研究指導方法

学生は、主・副大学に滞在するが、滞在中の大学の共同指導教員に主に研究指導を受ける。滞在中でない方の共同指導教員についても、バイマンズリー プロGRESS レビューなどのセミナー実施を通して研究指導を行う。両大学の共同指導教員の他に、各学生に対して学生指導委員会（資料 3 及び 4）が組織され、学生の研究指導にあたる。

学生指導委員会：

1. 委員長（主大学教員）
2. 共同指導教員 1（主大学）
3. 共同指導教員 2（副大学）
4. 共同指導教員 3（主大学）（必要に応じて設定）
5. 専攻内の教員（主大学）
6. 専攻内の教員（副大学）
7. 他専攻の教員（主大学）

なお、両大学は、指導内容及び履修科目の状況に関するデータ及び情報を確認及び共有する目的で、オンラインシステムを用いて相手校における各学生とその共同指導教員との間で円滑な意思疎通を図る。

(5) 修了要件

3 年又はそれ以上の期間にわたり JD プログラムに在籍し、必要な研究指導を受けた上、研究遂行上必要なすべての単位を含む必要単位（12 単位）を修得し、

博士論文の審査に合格した者に対し、本学連合農学研究科委員会の議を経て、学位を認定する。

(6) 学位審査

学位審査は、学位論文の査読審査及び口頭試問による最終試験によって行われる。学位論文の記述と口頭試問に用いる言語は英語である。

学生毎に対し、本学及び IITG の教員から構成される合同学位審査委員会が設置され、各学生の研究成果を評価する。

(ア) 学位授与方針

JD プログラムの学位は、ディプロマポリシーに従った能力を修得したものに対して授与するものとする。

学位授与の判断基準は、博士論文研究の内容が正しく価値のあるものであると、第三者による厳正な査読により評価されることである。このことを担保するため、博士論文の内容が少なくとも 2 編の査読付き国際論文に基づいていることとする。

(イ) 学位審査体制

博士学位審査にあたって、学位論文審査委員が選任され、合同学位審査委員会が組織される(資料4)。合同学位審査委員会は、学生指導委員会、及び論文審査委員の一部で構成される。

・学位論文審査委員：論文の専門分野もしくはそれに近い分野の教員などが担当し、実質的に論文審査を行う。審査委員は、指導教員以外で、論文の専門分野に関連する研究を行っており、論文の精査に十分な背景知識を持っており、かつ、共同研究に従事していない等、利害関係がない者(以下の3名)が担当する。

1. 学位論文審査委員 1 (主大学)
2. 学位論文審査委員 2 (副大学)
3. 学位論文審査委員 3 (主, 副大学あるいは他の機関)

・合同学位審査委員会：以下の教員・研究者で組織される。

1. 学生指導委員会委員長
2. 学位論文審査委員 1 (主大学)
3. 学位論文審査委員 2 (副大学)
4. 主大学教員
5. 共同指導教員 1 (主大学)
6. 共同指導教員 2 (副大学)
7. 共同指導教員 3 (主大学)

(ウ) 学位審査方法

学位論文審査委員は、提出された学位論文を審査し、合同学位審査委員会に結果を報告する（資料4）。合同学位審査委員会は、査読結果を受け、公聴会を開催し、口頭試問による最終試験を行う。合同学位審査委員会は、博士論文の基礎論文の公表状況、博士論文審査と最終試験の結果を、両大学における学位承認機関における学位認定会議（本学においては連合農学研究科委員会（博士課程））にて報告する（資料4）。

(エ) 授与される学位

JD プログラムを修了した学生には、博士（学術）（英語名称：Doctor of Philosophy）が授与される。

学位は、本学の学長及び IITG のディレクターの署名と両大学の校章が付された1枚の書状とともに両大学により共同で授与される。学位記は、主大学で交付される。学位の文言は、英語、ヒンディー語及び日本語で記載される（資料6）。

(7) 教育・研究にあたっての安全と倫理審査の体制

本専攻の教育・研究を実施するにあたっての安全と倫理審査は、本学及び IITG の規程を遵守して厳正に行うものとする。本専攻の学生が副大学に滞在する場合は、副大学の関連規程に従うこととする。これらは、協定書の第8条で合意されている。

(ア) アイソトープ及び X 線を使用する実験

アイソトープ及び X 線を使用する実験に当たっては、放射線障害の防止に関する各種法令に基づいて制定された本学の規程に基づいて行う。実験前には教育訓練と放射線業務従事者特殊健康診断が、実験後には加えて放射線被曝線量の測定が義務づけられている。なお、これまでに被曝歴がある者は、被曝線量証明書を提出するものとする。

(イ) 組換え DNA 実験

遺伝子組換え DNA 実験については、本学の規程に基づいて行う。研究実施に当たっては、研究計画書を本学の当該委員会に申請し、実施場所に関する委員会審査を経て承認を得る必要がある。

(ウ) 動物実験

動物を使用する実験に当たっては、本学の規程に基づいて行う。実験計画及び実験施設に関して本学の当該委員会に申請し、審査を経た上で承認を得る必要が

ある。実験従事者に対して事前に必要な教育訓練を行う。

(エ) 病原体を扱う実験

ヒトの感染症の原因となる病原体（細菌，ウイルス，寄生虫，真菌，プリオン等）を扱う実験を行う場合は，本学の規程に従い，研究用の病原体の安全な取り扱いと保管を行うものとする。実施に際しては，実験計画及び実験施設に関して本学の当該委員会に申請し，審査を経た上で承認を得る必要がある。実験従事者に対して事前に必要な教育訓練を行う。

(オ) 有害化学物質（劇毒物等）を扱う実験

劇毒物などの有害化学物質を用いる実験を行う場合の安全性については，本学の規程に基づき，管理している。

(カ) 生物資源を扱う実験

生物資源を扱う実験を行う場合は，名古屋議定書（生物の多様性に関する条約の遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書）に従い，本学の当該委員会と情報を共有しつつ，生物資源を扱う実験を実施する大学と十分協議して実験を遂行することとする。

(キ) 公正な研究活動の推進及び研究倫理の向上

公正な研究の実施及び研究上の不正行為の防止を図るため，本学の規程に基づき，研究倫理の向上に努める。

7. 施設・設備の整備計画

本専攻においては，以下のとおり岐阜大学及びIITGのそれぞれの既存の校地，校舎及び設備等を共同利用するものとする。

(1) 岐阜大学

(ア) 校地の整備計画

本学は，応用生物学，工学，医学，教育学及び地域科学（人文，社会科学及び自然科学の融合分野）に関する学部と大学院を有しているが，それらの全てが岐阜市柳戸地区にある一つのキャンパス（面積 64 ヘクタール）の中に配置されている。学部及び大学院を合わせた学生数は 7,400 人ほどである。キャンパス内には，先端的な研究機器を保有しそれらの全学共同利用を推進する生命科学総合研究支援センターをはじめとする共同教育研究支援施設等に加え，3 つの学術的研究センター（次世代エネルギー研究センター，次世代金型技術研究センター，

生命の鎖統合研究センター)、図書館などが設置されている。平成31年度には、食品科学分野に関する研究開発及び地域の企業支援等の促進・強化を目指す岐阜県食品科学研究所(仮称)が同キャンパス内に開所予定である。このように、本学には全ての学部・研究科及び各種センターがワン・キャンパス内に配置されている。さらに、設備の集中化や全学的な共同利用の促進を図る取り組みを展開してきたため、各学部や研究科等が所有する設備のほか、学内の全学共同利用施設・設備を敷地から出ることなく利用可能である。これらの利点を生かし、本専攻における教育研究においても当該施設・設備を共同利用するものとする。

なお、本専攻で実施する教育・研究には、既設の学部・大学院と施設等を共用するが、既設の学部等の規模に比して本専攻の規模(定員2名、収容定員6名)は非常に小さいことから、既設の学部等の教育研究には支障はない。

(イ) 校舎等施設の整備計画

本専攻では、講義または演習、実験など、それぞれの授業科目の内容に合わせて、既設の講義室、実験室及び設備等を共同利用することとする。それら既設の講義室や実験室では電気、水道、空調の他、無線LAN環境が整っている。また、連携海外大学との講義や打ち合わせを行うことが可能なビデオ会議システムを備えている。研究指導の際には、既存の講義室、実験室、研究室及び設備等を共同利用する。このようにして、本専攻で実施する教育・研究に十分な環境が整備されている。

(ウ) 図書館の整備事業及び資料

岐阜大学の図書館(本館:延床面積7,919㎡ 閲覧座席数558席、医学図書館:延床面積2,032㎡ 閲覧座席数154席)は、現在約90万冊の書籍と約17,000タイトルに及ぶ雑誌に加え、約7,300タイトルの電子ジャーナル及び約7,300タイトルの電子書籍を保有している。さらにScopusやSciFinder(Academic)等の学術データベースを導入している。本学の学生教職員等は学生証あるいは身分証明書の提示によって図書館に入館でき、図書館保有の情報を自由に利用可能である。

開館時間は、平日9時から21時30分まで(医学図書館は8時30分から20時まで)、土曜日は10時から18時までであり、日・祝日(試験期間除く)及び夏季一斉休業日や年末・年始は休館となっている。館内には、無線LAN、コピー機等の設備が整っている。ブラウジングコーナーや視聴覚コーナーなどに加え、グループ学習などを行う場を提供することにより自主的な学習を促進するためのラーニング・commonsを整備するなど、多様な学習形態に対応した環境を提供している。

さらに、平成 27 年度に図書館の建物 1 階部分に、岐阜大学の構成員すべてが自由に入出りできる学習空間である「アカデミックコア」を開設し、学生の能動的な学習をさらに推進・支援していく施設として機能している。

(エ) 自習室について

本学において、大学院生は、指導教官の研究室あるいは大学院生室において学生各々の研究テーマに基づいた実験・研究を行っている。また図書館や各研究科棟にも自習やグループ学習などで利用できるスペースが整備されており、自習を行う環境は十分に整備されている。

(2) IITG

(ア) 校地の整備計画

IITG のキャンパスはインド北東地域アッサム州の都市グワハティにあり、285ヘクタールという広大な面積を有している。IITG は工学，自然科学，人文科学に関する主要分野を網羅する 11 の学科と 6 つの学際的研究センターを擁している。11 の学科全てと大部分のセンターがキャンパス内の一カ所に集結し「アカデミックコンプレックス (Academic Complex) (面積 74,000 m²) 」と呼ばれる複合施設を形成している。アカデミックコンプレックスの近くには、附属図書館が設置されている。加えて、キャンパス内には、「テクノロジーコンプレックス (Technology Complex) 」と呼ばれる区画があり、インキュベーションセンターやバイオテックパーク等が設置されている。学部及び大学院を合わせた学生数は 5,500 人ほどである。全ての学部・研究科及び各種センターがワン・キャンパス内に配置されている利点を活かし、本 JD プログラムで実施する教育・研究は、アカデミックコンプレックスを中心とした当該施設・設備ならびに学内にある既存の先端的な研究機器を共同利用するものとする。

なお、本 JD プログラムで実施する教育・研究には、既設の学部・大学院と施設等を共用するが、既設の学部等の規模に比して本専攻の規模は非常に小さいことから、既設の学部等の教育研究には支障はない。

(イ) 校舎等施設の整備計画

本 JD プログラムで実施する教育について、授業科目の内容に合わせて、既設の講義室、実験室及び設備等を共同利用することとする。それら既設の講義室や実験室では電気、水道、空調の他、無線 LAN 環境が整っている。また、連携海外大学との講義や打ち合わせが可能なビデオ会議システムを備えている。研究指導においても、既存の講義室、実験室、研究室及び設備等の共同利用が可能である。本 JD プログラムで実施する教育・研究に十分な環境が整備されている。

(ウ) 図書館の整備事業及び資料

IITG の附属図書館 (Lakshminath Bezbaroa Central Library, 延床面積 7,500 m²) は、現在約 15 万冊の書籍と約 2,300 タイトルに及ぶ購読雑誌を保有している。また、科学や工学、テクノロジー等に関する電子書籍や学術データベースに対し「オンラインパブリックアクセスカタログ (On-Line Public Access Catalogue)」を通じて、キャンパスネットワークからアクセス可能である。学術データベースとして、Scopus や Web of Science, SciFinder Scholar 等を導入している。本学の学生教職員等は学生証あるいは身分証明書の提示によって図書館に入館でき、図書館保有の情報を自由に利用可能である。

開館時間は平日、休日ともに午前 8 時から翌日午前 2 時までであり、試験期間中は 24 時間開館している。

(エ) 自習室について

IITG においては、共有の自習室は特に設けていないが、附属図書館及び各学生寮、学生活動センター (students activity center) に自習できる場所 (席) を設けている。さらに、アカデミックコンプレックス内には多目的室が設置されており、予約によって利用可能である。本 JD プログラムの学生が自習する環境は十分に整えられている。

8. 入学者の選抜の概要

アドミッションポリシーに従った選抜を実施する。

(1) 出願資格

本専攻の出願資格は、本学と IITG の両出願資格を満たす必要がある。なお、両大学の出願資格は次のとおりである。

(ア) 岐阜大学の出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

- ①修士の学位を有する者又は所定の期日までに授与される見込みの者
- ②外国において修士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者
- ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者
- ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与

された者又は授与される見込みの者

⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者

⑥外国の学校、出願資格④の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当する審査に合格又は合格見込みで、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

⑦文部科学大臣の指定した者（平成元年告示第 118 号）

⑧本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達したものの

(イ) IITG の出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

①化学工学，生物工学，化学に関する科学と技術のいずれかの分野において修士号（**Master of Technology** に相当）を有する者

②化学工学，生物工学，化学に関する科学と技術のいずれかの分野において 4 年間学士プログラムの学士号（**Bachelor of Technology** に相当）を有する者

(2) 選抜方法及び選抜時期

JD プログラムへの入学許可に関する候補者の選抜を目的として本学及び IITG の教員から構成される合同入試委員会を組織する。

JD プログラムで学ぶことを希望する者は、本学または IITG のいずれかに応募書類を提出しなければならない。かかる応募者は、自らが応募した大学で試験を受ける。各校は、応募者を評価するためにそれぞれの試験方法を適用する。必要な場合、副大学の教員が、ビデオ会議システムにより口頭試験に参加する。合同入試委員会は、各校が推薦する入学候補者の中から最終選抜を行うものとする。年ごとの学生の人数は、両大学間の協議により決定されるものとする。

ここに記載する「入学」とは、「JD プログラムでの修学を開始すること」を意味する。本学においては、JD プログラムを教育プログラムとして実施する岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の入学と一致する（資料 7）。一方、IITG においては、既存専攻の博士課程に入学後、後項（イ）「IITG の試験方法及び基準」に示す 2 段階目の選抜を経て JD プログラムへの参加（学生登録）を完了した時点を「入学」とする（資料 7）。IITG における通常の博士課程と JD プログラム（博士課程）の違いを資料 8 に示す。IITG 入学学生が JD プログラムへの参加（学生登録）を完了する時期は 4 月である。

(ア) 岐阜大学の試験方法及び基準

岐阜大学では、JD プログラムへの応募者に対し 2 段階の選抜試験[(a)及び(b)]を行う(資料 9)。本学への応募者は、選抜試験を受験する前に、JD プログラムに関わる教員の中から主指導教員候補者を選び、応募書類を提出する。

(a) 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻選抜試験 JD プログラムへの応募者に対し、口頭試験を実施し、応募者の専門性及び JD プログラムにおける研究提案を総合的に評価して選抜する。なお、試験に使用する言語は英語として実施する。また、最終的な合否の判断は、合同入試委員会が行う。(b) 連合農学研究科の選抜試験

各応募者が志望する主指導教員は、連合農学研究科生物資源利用学専攻に所属する。応募者は、志望する主指導教員を決定した上で、連合農学研究科で実施されている選抜試験を受験する。実施時期は、9 月頃に予定される。

上記の 2 段階の選抜試験[(a)及び(b)]の両方に合格した者は、本専攻への入学が許可される。選抜試験(b)に合格し選抜試験(a)に不合格だった者は、連合農学研究科生物資源利用学専攻への入学が可能である。選抜試験(b)に不合格で選抜試験(a)に合格である場合は、通常専攻も国際連携専攻のどちらも不合格とする。

(イ) IITG の試験方法及び基準

IITG では、希望者に対し 2 段階の選抜試験を行う(資料 7)。

(a) 選抜試験

筆答試験及び口頭試験により合格者は IITG 各専攻博士課程に入学する。選考基準は既存専攻の基準に準ずる。

(b) JD プログラム参加のための選抜

IITG 博士課程の学生は、IITG で開講するコースワーク(講義)を少なくとも半年間受講する必要がある。このコースワークは、実質的には JD プログラム参加のための選抜試験に位置づけることができる。コースワーク成績などを総合的に判断し、JD 入学候補者を選抜する。

最終的な合否の判断は、合同入試委員会が行う。

(補足) IITG の博士課程において、学生は入学試験に合格・入学した後一定期間(典型的には半年)、食品科学技術に関する最先端の知識を得て課題発見能力を涵養するコースワーク(講義)を受講することが必修である。コースワークの合格水準に達した学生は、正式な博士課程学生として認められ、博士研究活動がスタートする(資料 8 の上図)。したがって、コースワークは、博士論文研究をはじめめるための関門(入試)としての役割がある。JD プログラムに関しては、上記のコースワークの履修を「JD プログラム参加の選抜」として位置づける(資料 8 の下図)。

(3) 入学定員

本専攻の入学定員は2名であり、本学及びIITGともにそれぞれ1名程度を選抜する予定である。なお、本専攻の収容定員は6名、母体となる連合農学研究科の収容定員は60名であることから、2割以内となっている。

(4) 入学希望者への情報提供

JDプログラムについての情報は、両大学の修士学生に対する説明会や、募集要項、ウェブサイト等を通して、事前に広く周知する。具体的には、アドミッションポリシー、取得する学位、修了の要件、主な授業科目及び教育研究内容、アカデミックカレンダー、入学に要する経費、入学料・授業料の免除等制度、奨学金制度や福利厚生等の学生支援について周知を行う。

9. 管理運営

(1) 研究科長及び専攻長

研究科長は、本学連合農学研究科の管理運営に関する最終的な責任及び権限を有する同研究科の代表者である。研究科長の下に本専攻の専攻長を置く。専攻長は、専攻内のカリキュラムと学生への教育・研究指導、学生募集を含めた運営全体を統括する。

(2) 合同運営委員会

両大学間の具体的協議を行う場として合同運営委員会を置く。本委員会は、毎年1回又は2回開催される。主な議題は以下である。

- －教育課程の編成に関する事項
- －教育組織の編成に関する事項
- －入学者の選抜に関する事項
- －学位審査に関する事項
- －学生の在籍管理及び安全に関する事項
- －学生への経済的支援及び福利厚生に関する事項
- －教育研究活動等の状況の評価に関する事項

合同運営委員会は、両大学の教員及び関連する事務職員から構成される。具体的には、IITGからは、JDプログラム長（本学における専攻長）、専任教員、専任教員が推挙するJDプログラムに参画の教員2名及び事務部長が参加する予定である。本学からはIITGに相当する教員及び事務職員が参加する予定である。

(3) 合同学位審査委員会

両大学で共同して学位審査を行うため、合同学位審査委員会を置く。学位審査を申請した学生毎に対し設置される本委員会は、3名以上の資格を有する委員からなる。具体的には、主査1名及び副査2名以上(両大学からそれぞれ1名以上)である。審査の中立性を確保するため、共同指導教員1(主指導教員)以外の者が主査を担当する。

学位授与方針に基づく最終試験の結果を踏まえ、合同学位審査委員会は学位授与の可否について意見を添えて両大学の研究科委員会に報告し、研究科委員会は学位授与の可否について審議し、決定する。

(4) 合同入学審査委員会

アドミッションポリシーに基づき、各大学のJDプログラムへの入学候補者の最終選抜を行うため、合同入学審査委員会を置く。口頭試験、修士の学業成績ならびにTOEICスコア等審査の結果に基づく選抜を行い、2国間での履修に問題が生じないかを同委員会で審査する。構成する委員は、両大学のJDプログラム長(専攻長)、両大学の専任教員、IITGの専任教員が推挙するIITG教員2名及び本学の専任教員が推挙する本学教員2名を予定している。

(5) ディレクター・学長会議

本学の学長及びIITGのディレクターは、JDプログラムに関する互いの関心事項について会議を開くことができる。

(6) 事務体制

本専攻における事務は、両大学にJDプログラムの円滑な実施を図るための事務組織を配置し、緊密な連絡により相互の調整を行いつつ運営に係る事務を行う。本学ではグローバル推進本部において国際及び留学生関係の業務を担う国際総務室と留学支援室が中心となり、学部・研究科及び関連事務部門と連携を図りながら管理運営事務を遂行する。IITGでは担当事務組織である学術担当事務室(Academic affairs offices)が連携窓口として各組織や教員と連携を図りながら管理運営事務を遂行する。

なお、本専攻における学生は両大学に籍を置くため、履修登録などカリキュラムに関する修学指導や生活支援等について教員と協力しながらサポートを行う支援体制を整備する。

(1) 全学的実施体制

岐阜大学では、組織、運営、教育、研究の状況に関する全学の自己点検・評価について「評価室」を設置するとともに、評価業務実施要項を定め実施体制を構築している。

評価室は、年度計画の達成状況について全学的な状況を自己点検・評価し、各事業年度の業務の実績に関する報告書としてとりまとめ、教育研究評議会、経営協議会、役員会で審議の上、国立大学法人評価委員会に提出している。

また、年度計画の実施状況の把握及び確実な達成を目指すため、計画ごとに責任部局、実施部局を指定して各部局の役割を明確にし、年度末の達成状況報告を評価室が検証し、評価を行うとともに、大学全体及び部局別の評価結果を報告書にとりまとめている。さらに、各部局において、年度計画及びミッションの再定義等に関わる具体的な目標を「組織目標」として各年度当初に設定し、年度末の達成状況について評価室が点検している。

これらの達成状況報告及び評価結果は学長へ報告され、学内で共有するとともに、一部を除き本大学のホームページで公開している。

https://www.gifu-u.ac.jp/about/objectives/mid_obj.html

トップ>大学案内>中期目標・中期計画・年度計画・評価

(2) 国際連携専攻に係る教育研究活動の状況に関する評価

両大学において、プログラムの質保証を行うため、常設の委員会等を設置し、年次評価を行い、併せて進捗状況や課題を確認する。この年次評価を基に、本専攻の完成年度（3年）経過後は、外部有識者を含めた構成員による外部評価を受審する。

1 1. 連携海外大学について

IITG は、インド人材開発省（Ministry of Human Resource Development: MHRD）により設置された工学教育及び研究のための最高高等教育機関の一つである。現在、23 のインド工科大学（IIT）がインド全土に広く設置されている。IIT は 1961 年に「国家重要機関」として宣言され、その権限及び義務、ガバナンスの枠組みなどが「The Institute of Technology Act, 1961」によって定められている。IIT 各校には、それぞれ Act で定められた独自の組織として評議員会（the Senate）及び経営評議会（Board of Governors）が設置されており、全 IIT の校務を総括する協議会（the Council）により相互に連携している。

連携大学である IITG については、基本法の改正条文「The Institutes of Technology (Amendment) Act, 1994 No.35 of 1994」において設置が定められ、

その組織運用の基礎が示されている。海外大学との共同学位授与における、当該大学独自の規則・規程は定められていないが、当該機関内に設置された評議員会及び経営評議会により承認された上で、科学技術教育における最高試問機関である全インド技術教育協議会（All India Council for Technical Education: AICTE）による新専攻設置の承認が必要となる。（参考：Collaboration & Twinning Program between Indian and Foreign Universities or Institutions in the field of Technical Education, Research and Training, Chapter V, p63-67, Approval Process Handbook 2015-2016, AICTE）。なお、インド国内における JD プログラムとしては、既に IIT マドラス校が中国の国立清華大学（National Tsing Hua University）との間で博士課程の JD プログラムを 2013 年に締結している。

インドでは、「The Institute of Technology Act, 1961」により中央政府の技術教育担当大臣を議長とし、科学技術教育における最高試問機関である全インド技術教育協議会（All India Council for Technical Education: AICTE）が設置されており、AICTE からの指名者等を含む IIT 協議会（the Council）により、最終的な内部質保証が担保されている。また、外部質保証として、AICTE により技術教育が可能な施設設備、教育の質保証による「工学及び科学技術」における学位授与機関としての認証管理が行われている。

また、各国立機関における年度運用評価として、インド人材開発省（Ministry of Human Resource Development: MHRD）により 2015 年 9 月 29 日に発足された国立機関ランキングフレームワーク（The National Institutional Ranking Framework: NIRF）が、全国立教育研究機関の「教育及び学修」「研究及び職業訓練」「卒業の成績」「アウトリーチ及び包括性」「認識」等の独自の評価パラメータによる採点を行い、全機関共通の評価及びランキング付けを実施し 2016 年 4 月から公開している。2017 年のランキングにおいて、IITG はインドの全大学中 8 位にランクされている。

1 2. 協議及び協定について

（1）合同運営委員会における協議

合同運営委員会はビデオ会議システムを使用して、毎年 1 回又は 2 回行う。両大学間における問題の把握と解決に向けた実質的協議を行い、円滑な運営を図る。

（2）両大学の指導教員間における協議

両大学の指導教員（共同指導教員）は、E-mail やビデオ会議システム、直接面会する機会などを活用して随時連絡を取りながら学生の研究の進捗と修学状況を確認・共有する。問題点を見いだした際には必要に応じて専任教員と共有し、問

題の解決を図る。

(3) 協定について

本専攻の設置に関する大学間協定 (Memorandum of Agreement) について、平成 30 年 (2018 年) 6 月から 9 月頃に本学の学長及び IITG のディレクターが同協定書に署名し、合意に至る予定である。なお、本大学間協定に先だって平成 26 年 (2014 年) 9 月 21 日に、本学と IITG 間における共同教育並びに学生派遣、教員派遣等に関する大学間協定 (Memorandum of Understanding) を、本学の学長及び IITG のディレクターの署名の下で締結している。これに基づき、今回新たな大学間協定を結ぶものである。

(4) 不測の事態が生じた場合の連絡体制及び手続

緊急事態のために、本学及び IITG は、両大学からの教員と関連する事務組織との間の緊急連絡網を設定するものとする。

1 3. 情報の公表

両大学は、JD プログラムに関する情報を速やかに学生に周知し、外国を含め広く公表する。

本学においては、広報に関する企画・立案、大学概要の発行、大学広報誌発行に関する業務を行う広報室を設置しており、ホームページや広報誌等を通じて、大学の社会・産学連携情報、教育研究活動、社会貢献活動等の情報を内外に積極的に発信している。なお、IITG においても、ホームページ等を通じて、大学の概要や活動等の情報を内外に積極的に公表している。

(1) 岐阜大学

ホームページアドレス

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/information/teaching.html>

トップ>大学案内>教育情報の公表

上記ホームページには以下に示す (ア) ~ (ケ) まだが掲載されている。

(ア) 大学の教育研究上の目的に関すること

この項目では、学部・研究科ごとの教育研究上の目的について公表している。

(イ) 教育研究上の基本組織に関すること

この項目では、学部の学科 (課程) 及び講座、大学院の課程 (専攻) 及び専攻、並びに、学部・大学院の設置等に関する情報を公表している。

(ウ) 教育組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

この項目では、役員等一覧、教員組織 (役割分担・専任教員数・男女別・職別) 、

教員の年齢構成，特色ある教育・研究プログラムについて公表している。各教員が有する学位及び業績については，以下のウェブサイトから入手可能である。
岐阜大学研究者情報 (https://cv01.ufinity.jp/gifu_u/?lang=japanese)

(エ) 入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

この項目では，以下について公表している。

- ・学部の入学者受入方針
- ・大学院の入学者受入方針
- ・入学者数
- ・在学生数・収容定員
- ・休学率・退学率・留年率
- ・学部卒業者数・進路状況
- ・大学院修了者数・進路状況
- ・学部卒業生の主な就職先
- ・国家試験合格状況・教員採用状況

(オ) 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

この項目では，以下のウェブサイトを利用して，授業科目・授業の方法及び内容に関する情報を入手可能である。

岐阜大学 Web シラバスは，以下のウェブサイトで公表している。

<https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/syllabus.html>

学年暦は，以下のウェブサイトで公表している。

https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/calendar/calendar.html

(カ) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

この項目では，学修の成果に係る評価，卒業又は修了の認定基準，・取得可能な学位，取得可能な免許・資格について公表している。

(キ) 校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

この項目では，キャンパスの概要，運動施設の概要，課外活動の状況，課外活動に用いる施設，休息を行う環境（福利厚生施設），その他の学習環境（附属施設・図書館），並びに主な交通手段について公表している。

(ク) 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

この項目では，授業料・入学料，宿舍に関する費用，教材購入費，並びに施設利用料について公表している。

(ケ) 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

この項目では、学生の修学支援（履修関係・生活支援）、進路選択支援、心身の健康等の支援、留学生支援、並びに障害者支援について公表している。

(コ) その他

① 学則等各種規程

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~kisoku/>

トップ>大学案内>岐阜大学規則集

② 認証評価の結果

https://www.gifu-u.ac.jp/about/objectives/mid_obj.html

トップ>大学案内>中期目標・中期計画・年度計画・評価

③ 大学概要（Web・冊子）

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/gaiyo.html>

トップ>大学案内>広報誌・刊行物>岐阜大学概要

④ 大学ポートレート

<http://top.univ-info.niad.ac.jp/univ/outline/0252>

トップ>大学案内>大学ポートレート

⑤ 岐阜大学国際交流年報（Web・冊子）

https://www.gifu-u.ac.jp/en/international/newsletter/annual_report.html

Home > International Relations > Publications and Handouts > Annual Report on International Relations >

(2) IITG

ホームページアドレス <http://www.iitg.ac.in/>

(ア) 大学の教育研究上の目的に関すること

(イ) 教育研究上の基本組織に関すること

これらの項目について、食品科学技術に関連する学部・研究科及び研究センターの情報を掲載する。

- Department of Biosciences and Bioengineering
(http://www.iitg.ernet.in/biotech/About_us.html)
- Department of Chemical Engineering
(<http://www.iitg.ernet.in/chemeng/node/73>)
- Department of Chemistry (<http://www.iitg.ernet.in/chem/index.html>)
- Center of Excellence for Sustainable Polymers
(<http://www.iitg.ernet.in/coesuspol/index.html>)
- Center for Energy (<http://www.iitg.ernet.in/ceer/index.html>)
- Center for Rural Technology (<http://www.iitg.ernet.in/crt/index.html>)

(ウ) 教育組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

役員等について以下のように公表している。

- Board of Governors (<http://www.iitg.ernet.in/home/pagesin/7>)
- Senate (<http://www.iitg.ernet.in/home/pagesin/8>)

IITG Administration (<http://www.iitg.ernet.in/home/pagesint/9>)

教員配置状況，教員が有する学位及び業績については以下のように公表している。

- Department of Biosciences and Bioengineering
(<http://www.iitg.ernet.in/biotech/Faculty.html>)
- Department of Chemical Engineering
(<http://www.iitg.ernet.in/chemeng/faculty/factotal>)
- Department of Chemistry
(<http://www.iitg.ernet.in/chem/faculty.html#page=page-1>)
- Center of Excellence for Sustainable Polymers
(<http://www.iitg.ernet.in/coesuspul/index.html>)
- Center for Energy (<http://www.iitg.ernet.in/ceer/faculty.html>)
- Center for Rural Technology (<http://www.iitg.ernet.in/crt/faculty.html>)

特色ある教育・研究プログラムについては，学部・研究科及び研究センターのトップページに記載されている。

(エ) 入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- 学部の入学者受入方針
(<http://www.iitg.ernet.in/acad/ordinances/BTechOrdinances2010.pdf>)
- 大学院の入学者受入方針
(http://www.iitg.ernet.in/acad/ordinances/MTech_MdesOrdinances.pdf)
- 大学院入試 (<http://www.iitg.ac.in/gate-jam/>)
- 入学者数，在学学生数・収容定員
(<http://www.iitg.ernet.in/acad/statistics/conSTD.htm>)

(オ) 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- Web シラバス (http://www.iitg.ac.in/acad/courses_syllabee.php)
- 学年歴 (http://www.iitg.ac.in/acad/acadCal/academic_calander.htm)

(カ) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- 学修の成果に係る評価，卒業又は修了の認定基準，
• 取得可能な学位
(http://www.iitg.ernet.in/acad/ordinances/MTech_MdesOrdinances.pdf)
(http://www.iitg.ernet.in/acad/acad_activity.php)

- ・取得可能な免許・資格
- (キ) 校地, 校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
 - ・キャンパスの概要
(<http://www.iitg.ac.in/aa/pages/campusmap/index.php?hq>)
 - ・運動施設の概要 (<http://www.iitg.ac.in/home/pagesinl/4/2/6>)
 - ・課外活動の状況 (<http://www.iitg.ernet.in/stud/gymkhana/>)
 - ・課外活動に用いる施設 (<http://www.iitg.ac.in/home/pagesinl/2/2/6>)
 - ・休息を行う環境(福利厚生施設) (<http://www.iitg.ac.in/home/pagesinl/3/2/6>)
 - ・学習環境(附属施設・図書館) (<http://www.iitg.ac.in/home/pagesin/2>)
 - ・図書館蔵書検索 (<http://www.iitg.ernet.in/lib/>)
 - ・大学病院 (<http://www.iitg.ernet.in/medical/>)
 - ・交通手段 (<http://www.iitg.ac.in/home/pagesin/3>)
- (ク) 授業料, 入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
 - ・授業料・入学料, 宿舎に関する費用, 教材購入費, 並びに施設利用料
(http://www.iitg.ernet.in/acad/fees_structure.php)
- (ケ) 大学が行う学生の修学, 進路選択及び心身の健康等に係る支援に関するこ
と
 - ・学生の修学支援(履修関係・生活支援)
(<http://www.iitg.ernet.in/acad/ordinances/ScholarshipOrdinance.pdf>)
 - ・進路選択支援 (<http://www.iitg.ernet.in/home/quickpages/17>)
 - ・心身の健康等の支援 (<http://www.iitg.ac.in/home/pagesinl/3/2/6>)
 - ・留学生支援 (http://www.iitg.ac.in/aa/newsite/home_final.php)
- (コ) その他
 - ① 学則等各種規程
<http://www.iitg.ernet.in/rti/>
 - ② 大学概要 (Web)
<http://www.iitg.ernet.in/upload/193938778655ffbf10c783f.pdf>
 - ③ 年報 (Web・冊子)
<http://www.iitg.ernet.in/pro/internet/audit>
 - ④ 大学間協定 (Memorandum of Understanding)
<http://www.iitg.ac.in/aa/newsite/mou.php>
 - ⑤ FACT SHEET
<http://www.iitg.ernet.in/upload/124722507655ffcbb316dfd.pdf>

本専攻が教育・研究上の目標を達成し、持続可能な教育プログラムを構築することを図るために、学生へのアンケートを定期的実施する。これにより、主大学及び副大学における履修科目、研究指導、学位審査のそれぞれに対する質や適切さ、副大学への派遣時期や期間の適切さ、ならびに JD プログラム修学に関する問題点等について調査する。得られた結果を JD プログラムに参画する教員にフィードバックする。さらに JD プログラムに参画した教員からも本プログラムに関する意見を集める。学生及び教員からの情報を合同運営委員会で議論し、教育プログラムの更なる向上に努める。

15. 学生への在籍管理及び安全に関する取組

(1) 在籍管理

本専攻に入学した学生の学籍は、本学及び IITG の二重学籍であるとし、修学中は両大学に籍を置くものとする。

(2) 休学、復学及び退学

学生は、休学、復学又は退学を希望する場合、主大学が定めるポリシー、ルール及び規則を遵守するものとする。

(3) JD プログラムを終了する場合の手順

いずれかの大学が JD プログラムの終了を希望する場合、かかる大学は少なくとも 2 年前までに終了の意思を相手方の大学に書面で通知するものとする。終了通知は、本協定の終了前に JD プログラムに既に受け入れられ、かつ、在籍する学生の身分に影響を及ぼさないものとする。全ての学生が本プログラムを修了するまで、本プログラムを終了することはできない。

大学が所在する国でプログラムが中止されうる天災事由又はその他の酌量すべき事情が発生した場合、学生を保護するために両大学は代替の方策を決定し、必要なポリシーを策定するものとする。当該ポリシー及び方策により、既存の提供可能な同等のプログラムに学生を移行させることに関し、JD プログラムを終了させた大学が責任を負うことが保証され、更に、学生がプログラムを通して取得した履修単位が有効であり、かつ、当該学生の学位の要件にこれが適用されることも保証される。両大学は、プログラムが不測の事態等により終了し、その結果として科目が中止された場合、これについて完全な救済を行うものとする。

両大学は、それぞれの国の法令に基づいて、学生の在籍管理及び学業成績証明書を保持するものとする。

(4) 経費

JD プログラムの運営に必要な経費に関し、資金が提供されることも請求されることもない。一方の大学で生じた経費は全て経費が生じた大学が負担するものとする。

JD プログラムへの参加を希望する学生は、入試が行われる大学に必要な受験手数料を支払うものとする。JD プログラムに登録した学生は、入学手続きを完了した大学に必要な入学金を支払うものとする。

授業料及び手数料は、以下のとおり取り決める。

- (a) 本学入学学生は、授業料及びその他必要な手数料を本学に支払うものとする。本学入学学生は、IITG における授業料及びその他必要な手数料の支払を免除される。
- (b) IITG 入学学生は、授業料及びその他必要な手数料を IITG に支払うものとする。IITG 入学学生は、本学における授業料及びその他必要な手数料の支払を免除される。

16. 学生への経済的支援及び福利厚生に関する取組

両大学は、JD プログラムに在籍している間の学生の学問的、財政的及び個人的な問題を支援するために尽力するものとする。

本学は、本学入学学生に対し入学金と授業料の免除を講ずるものとする。IITG は、JD プログラムに在籍する IITG 入学学生に、旅費及び生活費を経済的に支援するための奨学金を提供するものとする。本学は、JD プログラムに在籍する IITG 入学学生を、当該学生が本学に滞在する間、ティーチングアシスタント、リサーチアシスタントまたはチューターとして雇用することができる。同様に IITG は、JD プログラムに在籍する本学入学学生を、当該学生が IITG に滞在する間、ティーチングアシスタント、リサーチアシスタントまたはチューターとして雇用することができる。

本学入学学生が本学と IITG との間を往復する旅費および副大学における寮費は学生自身が負担するものとする。本学学生の往復旅費については、本学の大学基金でサポートされる「海外に留学するための奨学金制度」等に申請するよう JD プログラム学生に勧める。JD プログラムに在籍する本学入学学生は、入学金と授業料の免除あるいは減額によって、JD プログラムの特質上必要な費用（往復旅費、副大学での寮費、その他滞在に掛かる費用）の多くをまかなうことができる。一方、IITG 入学学生が IITG と本学との間を往復する旅費は、主大学である IITG が負担するものとする。副大学における寮費は学生自身が負担するものとする。

JD プログラムに参加することにより生じる副次的な費用はすべて、学生自身

が負担するものとする。かかる費用には、交通費、食費、旅行保険、健康・災害保険、生活費、書籍代及び文具代が含まれる。JD プログラムに在籍する両大学の学生は、受入機関の保健サービスを受けることができ、かつ、地域の病院へかかることができる。ただし、病院その他医療に係る費用はすべて、学生自身が負担するものとする。

17. その他

(1) 協定書で使用する用語の定義

大学間協定書で使用される言語は英語とする。

(2) 国際連携教育課程の実施に係る責任の所在

本学の学長及び IITG のディレクターの両者が、JD プログラムの実施に関して責任を負う。また、原則、学生が入学手続きを行った大学の指導教員が主指導教員となり、責任を持って指導を行う。本専攻における教育研究等に関する重要事項等については、両大学で合同運営委員会を設置して、双方実質的な議論ができる体制とし、連携して実施する。

(3) 知的財産権の扱い

両大学は、JD プログラムが様々な種類の知的財産及び技術の生成及び開発をもたらす可能性があることを認識しておく。両大学は、JD プログラムの実施の過程で当該事案が発生した場合、誠実に交渉して、知的財産権または技術に関する条件（所有権、保護、商品化、利用、公表及び秘密保持を含む）を正式な契約書において合意するものとする。

(4) セーフティーネット

本学において、本専攻の学生が何らかの事情により履修を断念した場合や JD プログラムの修了要件を満たさなかった場合、天災等の事由によって履修継続が困難となった場合などが想定される。一方、8. 「入学者の選抜の概要」に記載の通り、本専攻に在籍する学生は、生物資源科学専攻あるいは生物生産科学専攻の選抜試験にも合格している（資料9）。故に、上記のように本専攻での履修が困難になった場合には、当該学生は、本専攻から、生物資源科学専攻あるいは生物生産科学専攻に転籍することができる。

(5) 単位を取得できなかった際の対応

科目を履修したものの必要数の単位が取得できなかった際には、該当科目に対す

る成績を考慮して、①成績評価を行った試験を再度受験する、②該当科目の内容に関するレポートを提出する、③再履修するなどを実施し、学生が単位取得に必要な理解度を得ているかを評価し単位を与えるものとする。

(6) 連携外国大学への渡航前の準備について

学生が連携外国大学へ渡航する際には、本学学内で実施される海外渡航に関する研修会に参加することを勧め、海外で安全に活動するための留意点を事前に熟知するよう指導する。さらに、海外での学外実習届の提出や健康保険への加入など渡航に必要な手続きを行うよう指導する。

【参考資料】

- 資料1 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の概要
- 資料2 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）のカリキュラム
- 資料3 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）における研究指導
- 資料4 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の学位審査の流れ
- 資料5 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の履修モデル
- 資料6 ジョイントディグリープログラム（博士課程）の学位記（案）
- 資料7 国際連携専攻の入学から学位審査の流れ
- 資料8 IITG の博士課程のスケジュール
- 資料9 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の入試方法

【基本概要】

母体組織：大学院連合農学研究科（The United Graduate School of Agricultural Science）
 専攻名称：岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻
 （International Joint Department of Food Science and Technology between Indian Institute of Technology Guwahati and Gifu University）
 学位名称：博士（学術）（Doctor of Philosophy）
 入学定員：2人（岐阜大学 1人 IITG 1人）

【養成する人材像と習得すべき能力】



【修了後の進路】

- ・インドを含む世界各国に展開する食品関連企業における研究者
- ・インドを含む世界各国への事業展開を目指す食品関連企業における研究者
- ・国際的な公的研究機関や公的試験機関における研究者
- ・大学教員や高等教育機関における教員

【専攻の特色】

- ◆在籍期間中、途中1年間、連携外国大学（副大学）で研究活動を実施
- ◆デザイン思考を研究プロセスに導入 ◆英語を共通言語として使用

★教育プログラムの特長

- ・連携外国大学教員との共同研究指導
- ・両大学の指導教員（合計2名以上）による共同研究指導・協働教育
- ・学生指導委員会による研究指導
- ・1人の学生に対し岐阜大学とIITGの双方の教員で組織される学生指導委員会による研究進捗確認と指導

★デザイン思考を取り入れた研究の遂行と進捗評価

科目（名称は仮）	単位数	内容
①ディサテーションプロジェクトプロポーザル	1	事前調査、問題提起、研究の立案 学生指導委員会において提案
②バイマンズリー プロGRESS レビュー	3	共同指導教員との方針確認・議論 各セメスターごとの成績評価
③アニュアルプロGRESS レビュー	2	学生指導委員会において、1年に1度、 研究の進捗を報告
④ディサテーション シノプシスレビュー	1	学生指導委員会において、博士論文の 概要を提出

◆専門性の深化と広範化、倫理及び自己管理能力の涵養

- ・総合農学ゼミナール、研究者倫理・職業倫理及びメンタルヘルス・フィジカルヘルス

◆研究教育、学位の質の保証

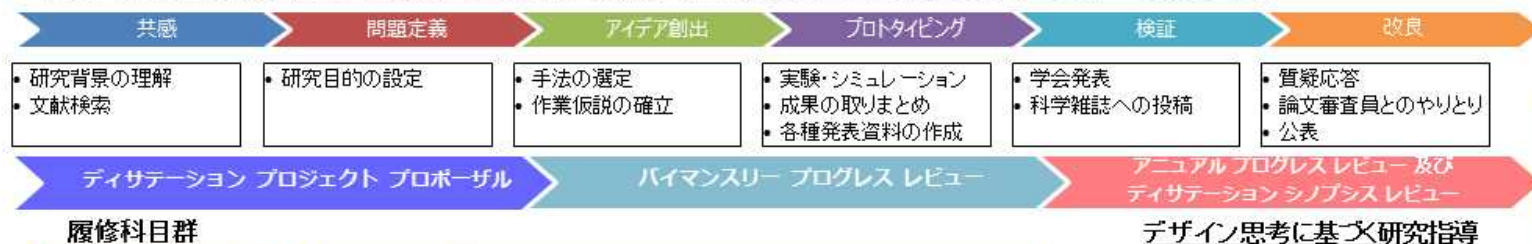
- ・研究進捗を各セメスター毎に共同指導教員（主大学、副大学）が評価（②）
- ・学生指導委員会による研究進捗の確認（①③④）
- ・合同学位審査委員会による学位審査

岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻（博士課程）のカリキュラム

資料 2

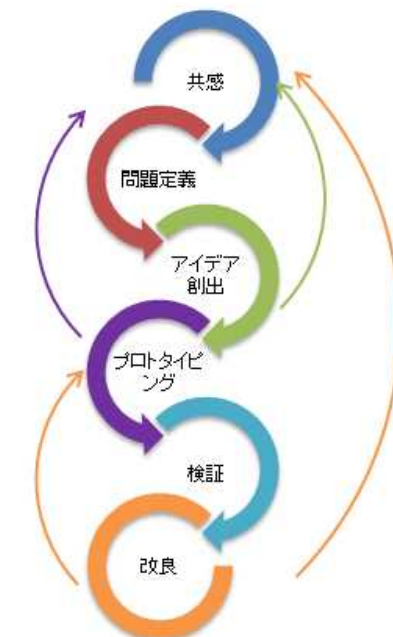


主大学に2年間、外国連携大学に1年間滞在する。必修科目9単位ならびに選択科目3単位以上を履修する。博士論文研究については、デザイン思考を取り入れ、そのプロセスを細分化し定義する。各研究プロセスの評価・検証は、共同指導教員及び学生指導委員会が各種セミナーを通して行う。



履修科目群

科目群	履修 単位数	種別	科目名等
共通科目	2	必修	<ul style="list-style-type: none"> 総合農学ゼミナール 研究者倫理・職業倫理 メンタルヘルス・フィジカルヘルス
専門科目	7	必修	<ul style="list-style-type: none"> ディサテーション プロジェクト プロポーザル バイマンズリー プロGRESS レビュー アニュアル プロGRESS レビュー ディサテーション シノプシス レビュー
共通科目又は 専門科目	3	選択	共通科目又は専門科目から選択 <ul style="list-style-type: none"> 食品科学技術特別講義 食品科学技術特別セミナー 食品科学技術特別演習 農学特別講義Ⅱ 農学特別講義Ⅲ インターネットチュートリアル 研究インターンシップ 科学英語ライティング カルタヘナ議定書
合計	12		



本専攻では、デザイン思考のプロセスを研究過程に割り当て、デザイン思考を意識して研究活動を行う。

岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻（博士課程）における研究指導

資料 3



本専攻の教育課程期間は3年間を標準とする。在籍期間のうちの約1年を副大学に滞在する。4月から本JDプログラムでの修学を始めるものとする。研究指導は主大学及び副大学で行われる。各学生に対し両大学から「共同指導教員」を置き、実質的な研究指導を行う。各学生に対し岐阜大学とIITGの双方の教員で組織される「学生指導委員会」により、客観的な研究進捗確認と指導を行う。

学期	1st	2nd	Break	3rd	4th	Break	1st	2nd	Break	3rd	4th	Break	1st	2nd	Break	3rd	4th	Break
開始月	4月	6月	8月	10月	12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	2月
岐阜大学入学生	岐阜大学において履修*と研究						IITGにおいて履修と研究						岐阜大学において履修と研究					
IITG入学生	IITGにおいて履修と研究						岐阜大学において履修*と研究						IITGにおいて履修と研究					
共同指導教員	決定																	
学生指導委員会	発足																	
博士論文研究★(単位数)	DPP	BPR		BPR	APR		BPR	BPR		BPR	APR		BPR	BPR		DSR執筆	論文審査	修了
合同学位審査委員会	発足																	

* 本学開講の必修科目を履修する（総合農学ゼミナール [1単位]、研究者倫理・職業倫理 [0.5単位]、メンタルヘルス・フィジカルヘルス [0.5単位]、計2単位）

- ★ **DPP** (ディサテーション プロジェクト プロポーザル) 学生は研究開始時に研究の背景を体系的に理解し、研究提案を行う。
BPR (バイマンズリー プログレス レビュー) 学生は研究の進捗を指導教員に報告し、問題点や今後の計画などを話し合う。
APR (アニュアル プログレス レビュー) 学生は1年に1度、学生指導委員会において研究の進捗を報告し質疑応答を行う。
DSR (ディサテーション シノプシス レビュー) 学生は学生指導委員会において研究成果及び論文の公表状況などについて発表、質疑応答を行う。
DSRにおける学生指導委員会での審査を経て、博士論文提出の可否が決定される。

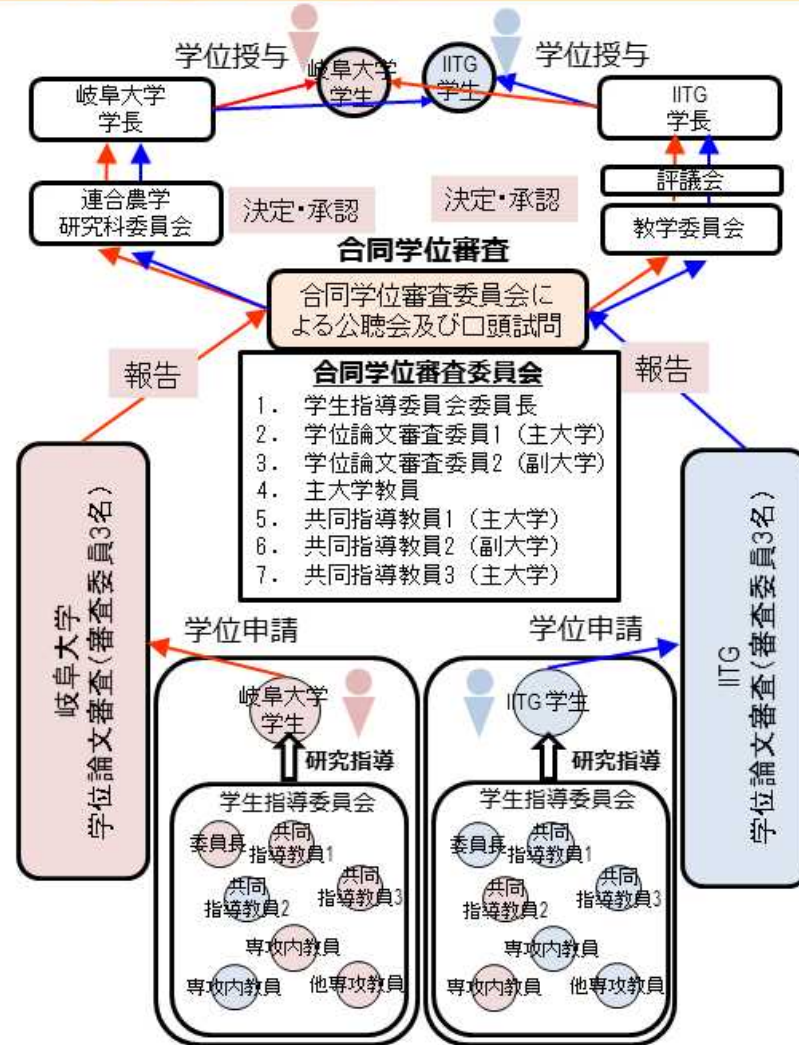
共同指導教員の構成員は以下である。

1. 共同指導教員1 (主大学)
2. 共同指導教員2 (副大学)
3. 共同指導教員3 (主大学) (必要に応じて設定)

学生指導委員会の構成員は以下である。

1. 委員長 (主大学教員)
2. 共同指導教員1 (主大学)
3. 共同指導教員2 (副大学)
4. 共同指導教員3 (主大学) (必要に応じて設定)
5. 専攻内の教員 (主大学)
6. 専攻内の教員 (副大学)
7. 他専攻の教員 (主大学)

岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の学位審査の流れ



岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の履修モデル



履修科目群

種別	科目群	科目名	単位	開講年	開講場所
必修	専門科目	ディサテーション プロジェクト プロポーザル	1	1	共同
必修	専門科目	バイマンズリー プロGRESS レビュー	3	1~3	共同
必修	専門科目	アニュアル プロGRESS レビュー	2	1~2	共同
必修	専門科目	ディサテーション シノプシス レビュー	1	3	共同
必修	共通科目	総合農学ゼミナール	1	1・2	岐阜大
必修	共通科目	研究者倫理・職業倫理	0.5	1・2	岐阜大
必修	共通科目	メンタルヘルス・フィジカルヘルス	0.5	1・2	岐阜大
選択	専門科目 共通科目	(専門科目群又は共通科目群から3 科目選ぶ)(*)	3	1・2・3	岐阜大

修了要件:12単位 (必修科目9単位+選択科目3単位=12単位)

*ITG入学の博士学生は、本JD専攻(JDプログラム)に登録(入学)する前に、4科目のコースワーク(座学14週+試験)の履修を義務付けられている。座学の内容は、食品科学技術に関するものである。学生の理解度を確保するため、JDプログラム入学後、Comprehensive Examinationとして試験が実施される。そのため、専門科目(選択)「食品科学技術特別講義/ゼミナール/特別演習」(3単位)を既修得単位として認める。

履修モデル

主大学 = 岐阜大学				
1年目 於 岐阜大	形態	科目名	単位	開講
必修	演習	ディサテーションプロジェクトプロポーザル	1	共同
必修	演習	バイマンズリー プロGRESS レビュー	1	共同
必修	演習	アニュアルプロGRESSレビュー	1	共同
必修	講義	総合農学ゼミナール	1	岐阜大
必修	講義	研究者倫理・職業倫理	0.5	岐阜大
必修	講義	メンタルヘルス・フィジカルヘルス	0.5	岐阜大
選択	講義	共通科目群から1科目選択	1	岐阜大
2年目 於 IITG	形態	科目名	単位	開講
必修	演習	バイマンズリープロGRESSレビュー	1	共同
必修	演習	アニュアルプロGRESSレビュー	1	共同
3年目 於 岐阜大	形態	科目名	単位	開講
必修	演習	バイマンズリープロGRESSレビュー	1	共同
必修	演習	ディサテーションシノプシスレビュー	1	共同
選択	演習	専門科目群から2科目選択	2	岐阜大

主大学 = IITG				
1年目 於 IITG	形態	科目名	単位	開講
必修	演習	ディサテーションプロジェクトプロポーザル	1	共同
必修	演習	バイマンズリー プロGRESS レビュー	1	共同
必修	演習	アニュアルプロGRESSレビュー	1	共同
2年目 於 岐阜大	形態	科目名	単位	開講
必修	演習	バイマンズリープロGRESSレビュー	1	共同
必修	演習	アニュアルプロGRESSレビュー	1	共同
必修	講義	総合農学ゼミナール	1	岐阜大
必修	講義	研究者倫理・職業倫理	0.5	岐阜大
必修	講義	メンタルヘルス・フィジカルヘルス	0.5	岐阜大
3年目 於 IITG	形態	科目名	単位	開講
必修	演習	バイマンズリープロGRESSレビュー	1	共同
必修	演習	ディサテーションシノプシスレビュー	1	共同

ジョイントディグリープログラム（博士課程）の学位記（案）

資料 6



									
<p>学位記 डिप्लोमा की डिग्री / Degree Certificate</p>									
<p>岐阜大学およびインド工科大学グワハティ校 गिफू विश्वविद्यालय और भारतीय प्रौद्योगिकी संस्थान गुवाहाटी Gifu University and Indian Institute of Technology Guwahati</p>									
<p>氏名 पूरा नाम First name Family name</p>									
<p>岐阜大学およびインド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻の 博士課程を修了したので博士(学術)の学位を授与する Description of the below in "Hindi language"</p>									
<p>has successfully completed the Gifu University and Indian institute of Technology Guwahati International Joint PhD program in Food Science and Technology leading to the degree of Doctor of Philosophy</p>									
<p>学位授与の日付 डिग्री पुरस्कार दिनांक Awarded on Month Day, Year</p>									
<p>Signature _____ 岐阜大学長 गिफू विश्वविद्यालय प्रेमनेते President, Gifu University</p>	<p>Signature _____ インド工科大学グワハティ校学長 भारतीय प्रौद्योगिकी संस्थान गुवाहाटी Director, Indian Institute of Technology Guwahati</p>								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">学位記番号(GU) क्रमांक Ser. No.</td> <td style="width: 25%;">生年月日 जन्म की तारीख Date of Birth</td> <td style="width: 25%;">国籍 राष्ट्रीयता Nationality</td> <td style="width: 25%;">学位記番号 (IITG) क्रमांक Ser. No.</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	学位記番号(GU) क्रमांक Ser. No.	生年月日 जन्म की तारीख Date of Birth	国籍 राष्ट्रीयता Nationality	学位記番号 (IITG) क्रमांक Ser. No.					
学位記番号(GU) क्रमांक Ser. No.	生年月日 जन्म की तारीख Date of Birth	国籍 राष्ट्रीयता Nationality	学位記番号 (IITG) क्रमांक Ser. No.						

ジョイントディグリープログラムを修了した学生には以下の学位が授与される。

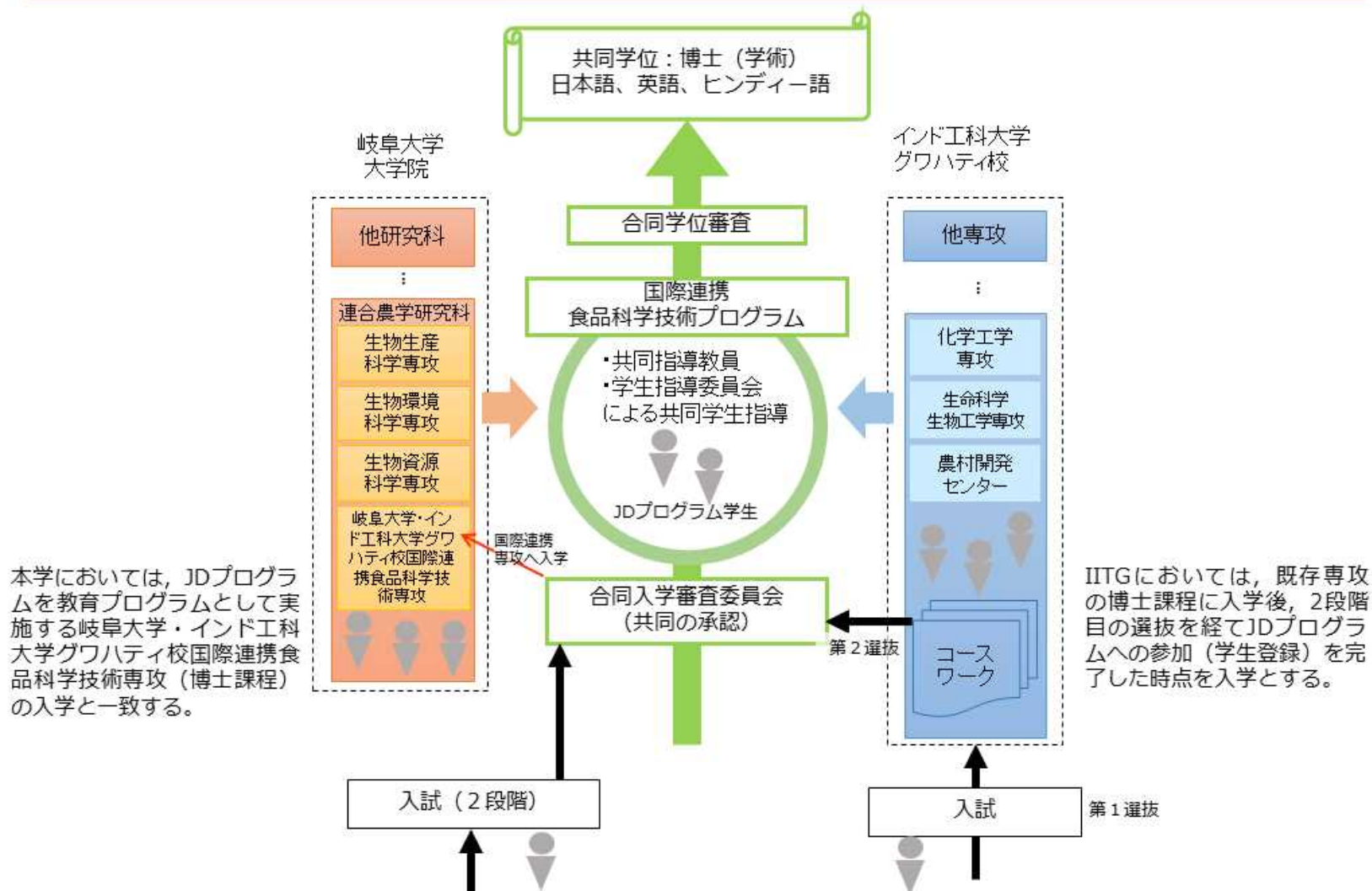
博士（学術）及び
Doctor of Philosophy

学位は、本学の学長及びIITGのディレクターの署名と両大学の校章が付された1枚の書状とともに両大学により共同で授与される。学位記は主大学で交付される。

学位の文言は、英語、ヒンディー語及び日本語で記載される。

国際連携専攻の入学から学位審査の流れ

資料 7

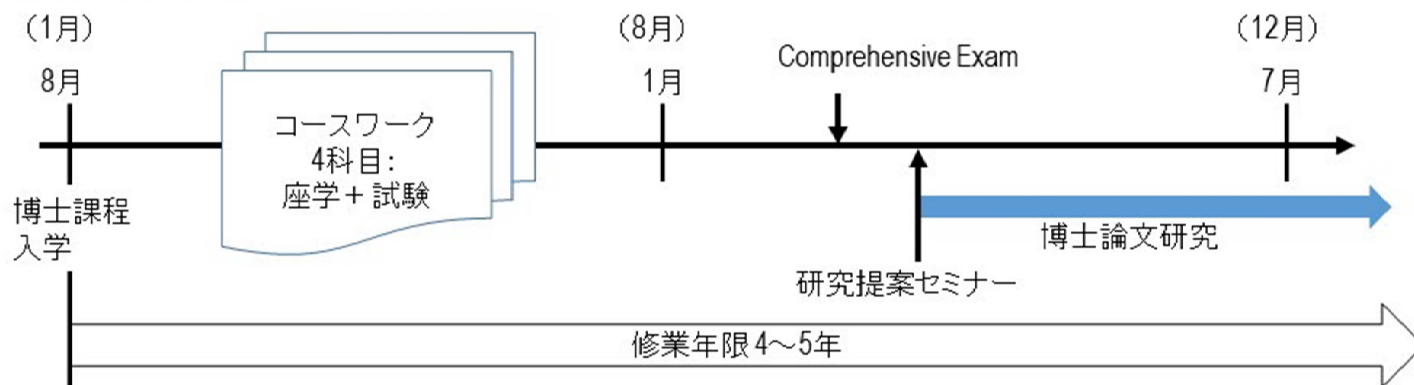


IITGの博士課程のスケジュール

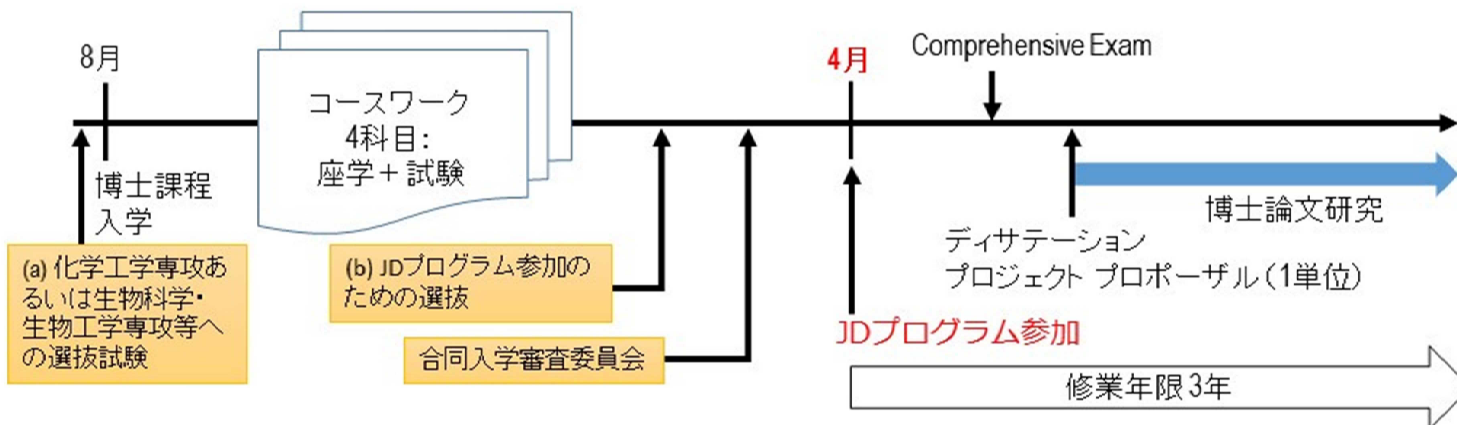
資料 8



(1) 通常の博士課程



(2) JDプログラム（博士課程）



IITGにおいては、既存専攻の博士課程に入学後、「IITGの試験方法及び基準」に示す2段階目の選抜を経てJDプログラムへの参加（学生登録）を完了する時期は4月である。

岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻（博士課程）の入試方法

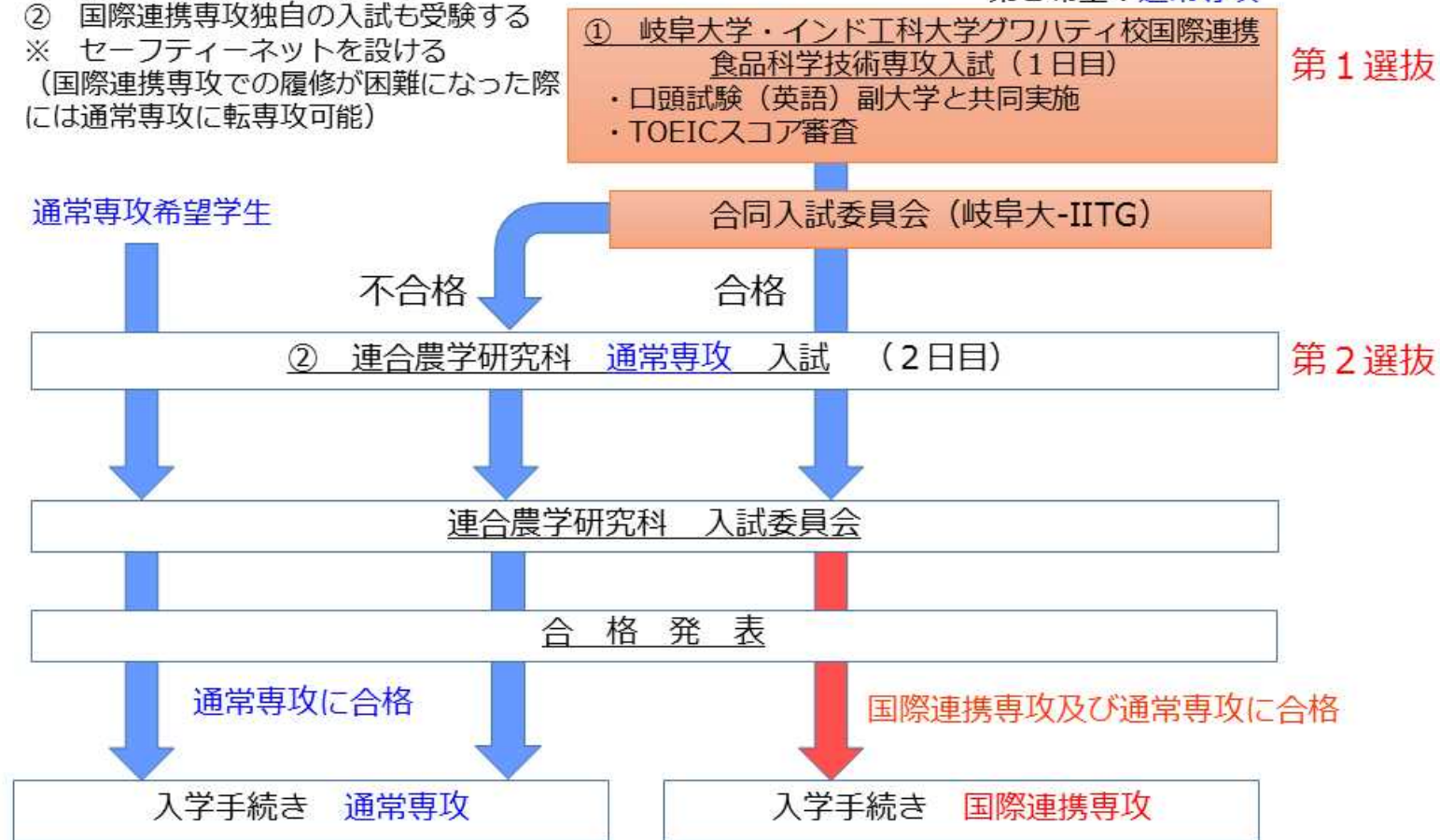
資料9



本専攻では2段階の選抜を実施する

- ① 通常専攻の入試を受験する
- ② 国際連携専攻独自の入試も受験する
- ※ セーフティーネットを設ける
(国際連携専攻での履修が困難になった際には通常専攻に転専攻可能)

国際連携専攻希望学生 第1希望：国際連携専攻
第2希望：通常専攻



(注) 第1選抜試験に合格で第2選抜試験に不合格である場合は、通常専攻も国際連携専攻のどちらも不合格とする。